

金属材料を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2021	2	10 ～ 12	丸棒状の鉄の先端をNC旋盤で加工中、何らかの原因で加工しているのとは反対側（NC旋盤から突出している）が変形し、付近にいた労働者らに接触したもの。なお、被災者のほか事業主も負傷した。	11301	6	1～9
2021	2	8 ～ 10	被災労働者が地山の掘削面の上部付近において、仮囲いに立て掛けてあった養生金網（幅約1m、長さ約2m、厚さ約1.5cm、自重約10kg）41枚の束を別の場所に移動させる作業を行っていたところ、当該金網の束が手前側に倒れ、被災労働者が当該金網に押し出されて地山の掘削面の下部に約1.9m墜落した。被災労働者は墜落箇所から露出していたH鋼の上端部に頭部を打ちつけ、外傷性くも膜下出血等により死亡した。	30201	1	10～ 29
2021	3	16 ～ 18	RC造8階建共同住宅大規模修繕工事、西面外部足場組立時、4M単管4本を吊袋に入れ荷上中、6階部分で荷取後、1本目を引き抜いた時に、吊袋のバランスが崩れ、残りの3本が地上に落下し、被災者の頭上に落下した。	30201	4	30～ 49
2021	3	14 ～ 16	翌日入荷予定の鋼材の置き場を確保する作業を行っていたところ、作業場所の横に積まれていた角パイプ40本束と約30本のバラ積みが被災者の方に崩れ落ち下敷きになったもの。	80401	5	10～ 29
2021	5	14 ～ 16	自社で使用する予定の鋼鉄製架台の製作中、2本の柱に立て掛けた230cm×210cm×厚さ7mmの鋼板を溶接により取り付けようと準備していたとき、鋼板が倒れて下敷きになったもの。被災者は救急搬送され、ICUにて救命治療を受けていたが、出血性ショックに	80109	5	1～9

			て死亡した。			
2021	8	10 ～ 12	マルチクロン集塵機の組付け作業中、サイクロンを取り付けるために集塵機の上部を取り外していたところ、集塵機に取り付けられていた取付板（2.28m×1.98m、厚さ9mm、約270kg）が倒れてきて、同取付板を押えていた被災者が取付板の下敷きになり、死亡したもの。倒れた取付板は集塵機本体にボルトで仮止めされていたが、組付け作業の都合上、ボルトを全て外していた。	11301	5	1～9
2021	8	14 ～ 16	被災者は、当該事業場の修理工場において、フォークリフトのパンクしたタイヤを修理していた。被災者は、タイヤからリムを外そうとし、固定していたボルトを緩めたところ、チューブの空気圧でねじ山が破損し、リム等が飛び、被災者の頭部に激突した。被災者は、脳挫傷等により、数日後死亡が確認された。	80109	4	10～ 29
2021	11	8 ～ 10	被災者は、焼鈍炉から製品を積載した台車を出し、台車に積載された鉄製フレーム（大きさ：縦1.25m×横3.02m×厚さ5cm、重量：約640kg）をクレーンで運搬するため、台車に乗って玉掛けをしていたところ、鉄製フレームが被災者側に倒れた。被災者は、左足が鉄製フレームに挟まった状態で転倒し、高さ約1m下の床面に頭部を打ち付けた。被災者は、病院に搬送され、後日死亡した。	11009	6	1～9
2021	11	14 ～ 16	被害者は、河川の樋門工事現場において鋼矢板5枚（長さ2.1m、幅0.6m、重量130kg）の打設作業中、移動式クレーンにより運搬してきた鋼矢板を設置箇所に降し、30cm程度埋め込んだ状態で玉掛用具を外したところ、当該矢板が倒れ下敷きとなったもの。なお、鋼矢板はつりクランプ1個を用いて玉掛し、クレーンでつり上げ運搬されていた。また、鋼矢板の接地箇所の土質は、非常に緩い状況であった。	30107	6	10～ 29
		14	被災時、係長Aが鉄板（横7,214mm、縦1,179mm、厚さ22mm）を、垂直に立てた状態（上下を機械で固定）で開先加工機へ投入し、開先加工を行っていた。その際、上の固定がうまくいって			10～

2021	12	～ 16	いないことに気づいた工場長Bが、スイッチを押下することによりうまくいっていない上の固定を外したところ、鉄板が倒れ、近くで清掃作業を行っていた労働者Cが被災した。	11209	6	29
2020	2	～ 10	ラムと呼ばれる1本の棒状のアタッチメントを取り付けたフォークリフトを使用して、重さ約2トンの荷（コイル状に巻かれた鋼線）を運搬する作業に従事していた被災者が荷とラムとの間にはさまれているところを発見され、医療機関に搬送されたが、外傷性窒息により、同日死亡した。	11209	7	50～ 99
2020	3	10 ～ 12	鉄骨部材（重量約160Kg）の溶接作業中、当該鉄骨部材の下敷きになったもの。	30201	4	1～9
2020	3	18 ～ 20	一次下請けとして入場している設備工事現場の帰途、作業員1名が市内の自社倉庫に立ち寄った。同作業員の帰社が遅いことから、心配した同僚が同倉庫に見に行ったところ、倉庫内で大量の配管パイプが倒れており、同作業員が倒れた配管パイプと隣の階段手摺との間に挟まれているのを発見したもの。発見時には意識と呼吸がなく、救急搬送先の医療機関で死亡が確認された。	30309	5	1～9
2020	5	12 ～ 14	工場内で開先加工機を使いH鋼加工をしていた。昼の休憩後、工場の作業場に戻り加工機の横の通路を歩いているのを約10m離れた材料の間から同僚が目撃していたが、その後、姿が見えないことに気づき、近くに行ったところ、コンクリートの床の上に倒れていた。すぐに救急車を呼び病院に搬送され、後日死亡したもの。	11209	2	1～9
2020	9	0 ～ 2	鉄骨平屋建ての農作物貯蔵施設の新築工事において、梁の地組を行っていた被災者が、梁の中央部を油圧ジャッキで持ち上げていたところ、梁が被災者の方に倒れて、下敷きになったもの。梁は2本のH型钢材を仮組して繋げた状態で、H型钢材は高さ800mm、幅300mm、長さ8.7m、繋げたときの全長は18.3m、重さは約5.	30201	5	1～9

			2 tであった。架台は転倒方向に約2度傾斜していた。			
2020	11	8 ～ 10	資材置場にて、関連会社の労働者が移動式クレーン仕様のドラグショベルを用いて、車両積載型トラッククレーンの荷台から荷下ろしした敷鉄板2枚（1枚の重さ約800kg）をH鋼の柱に立てかけた。被災者が鉄板間に挟んだバタ角を調整していたところ、1枚の鉄板が被災者の方向に倒れてきて被災者の胸部に当たり、被災者が死亡したものの。	30106	5	1～9
2020	11	16 ～ 18	作業台の上に置かれていた鉄骨の上を歩いて作業場所を移動していたところ、鉄骨から作業台（高低差20cm）に下りた際に、バランスを崩して、高さ79cmの作業台から墜落したものの。事故後、被災者は首から下が麻痺している状態で、意識はあったが、災害から2ヶ月後に亡くなった。	11209	1	1～9
2020	12	12 ～ 14	足場の資材置き場にて、被災者が一人で、足場部材の結束作業をしていたところ、隣に積まれていた支柱の束（高さ1.8m）が倒壊し、下敷きになって死亡したものの。	30209	5	10～ 29
2019	2	8 ～ 10	事務所ビルのレイアウト変更工事において、作業員2名で、壁に立て掛けて置かれていた鋼製パネル（部屋の間仕切りに使用するもので、長さ271cm×幅89cm、厚さ12.5mm）の仕分けにあたり、表面に貼られた取り付け場所の表示を確認するため、一枚ずつめくって、めくったものは2人で保持しながら進めていたところ、手前に倒れてきた同パネル（9枚）を支えきれず、1名がその下敷きになったものの。	30203	5	10～ 29
2019	2	10 ～ 12	倉庫内において、被災者が、アルミ建材（長さ4m、重さ5キログラム～7キログラム、50本～100本）を選定中、荷が崩れて下敷きとなり、胸部圧迫により死亡したものの。	30309	5	1～9
		14	被災者は、一段目に3本、二段目に2本の俵積み状態で積んだ鋼管（2.132t/本）5本を工場から配送先へ25tトレーラーで運搬する作業を行っていた。荷受け側が行う荷下ろし作業のため、固縛			50～

2019	3	～ 16	していたワイヤーロープをゆるめ取り外したところ、荷崩れが起こり、二段目の鋼管2本が荷台から落下し、被災者は下敷きとなり、死亡したものの。	40302	4	99
2019	4	8 ～ 10	被災者1人で工場兼倉庫の屋根の補修作業中、作業床に利用していたコイル状に巻いた鉄筋材（高さ1.6m）から転落し、頭部をコンクリート床に強打したものと推測される。その後、病院に搬送され入院加療中であったが、後日死亡した。なお、被災者は、屋根の補強材（C形鋼）を溶接する予定であったとのことであるが、溶接の作業は確認できていない。	11209	1	10～ 29
2019	9	14 ～ 16	被災者は、鉄骨資材（長さ約6m、重さ約600kg、四角辺約20cm）の部品取付作業を、出張先の資材置場にて作業として行っていた。被災者が、重ね置きされていた2本の鉄骨の部品部分（約1mのT字型）に足を掛け跨ごうとしたところ、部品が梃子となり、鉄骨ごと傾き、部品が胸部に激突、衝撃で背後に置かれていた鉄骨に背中が当たり、鉄骨に挟まれる状態となった。	11209	6	1～9
2019	11	10 ～ 12	工場内で2回程大きな音が聞こえたため、音が聞こえた方を確認すると、8段に積まれていた鋼材（トラス材）が崩れ落ち、近くにいた被災者が鋼材の下敷きとなり、右側頭後頭部から出血しているところを発見されたもの。発見時、崩れた鋼材（トラス材）の上に床上操作式天井クレーン（2t）が別の鋼材（V材）を吊った状態で止まっていた。	11209	5	10～ 29
2019	12	8 ～ 10	被災者は天井クレーン（つり上げ荷重10t）で吊っていた缶体（直径210cm、缶厚60cm、重量370kg）を反転機の片側に定置させ、玉掛を解いた後、無線式コントローラーで同クレーンを横行させている際、同缶体が倒れて下敷きになったもの。	11209	5	100 ～ 299
2018	2	～ 14	ステンレス製鋼材の成型作業を行っていた被災者が、鋼材を仮置きする台（ラック）の内部で、鋼材に挟まれ意識を失っているところを同	11001	5	100 ～

		15	僚に発見された。			299
2018	3	10 ～ 11	橋脚築造工事現場において、土止め支保工解体作業の際、被災者は腹起こしの鋼材を支持するブラケット材をガス溶断していたところ、腹起こしが落下しないよう、あらかじめチェーンブロックを両端2箇所 に掛け、一段上の腹起こしに当該腹起こしを吊り下げようとしていた が、ブラケット材が溶断されたときに片方のチェーンブロックが破断し、腹起こしが両方とも落下し、上段の腹起こしの下敷きとなり、死亡したものの。	30105	4	30～ 49
2018	5	8 ～ 9	事業場内土場において、平置きされたクレーンガーダを、作業スペースの確保のため3段（約3m）積み上げ、その横で部材のペンキ塗り をしていたところ、積み上げたクレーンガーダが崩れ落ち、被災者2 名にクレーンガーダが激突し、1名が重傷、1名が軽傷を負ったもの。その後、重傷者の容態が悪化して死亡した。	11209	5	1～9
2018	6	8 ～ 9	敷地内において、木製の柱（高さ約3メートル）に、アンカーボルト（上下2か所）及び、結束バンドで固定していた、鯉のぼり用金属製ポール（高さ12メートル、直径5センチメートル）を撤去しようとしていたところ、上部のアンカーボルトを支点にポールの先端が北西方向に倒れ、ポールの根本付近（南東方向）に、被災者が仰向けに倒れていた。	11709	6	1～9
2018	6	12 ～ 13	木造家屋建築物解体工事において、防音・防じん用仮設設備（仮囲い）の解体中、労働者Aが高さ2.7mの単管（手すり部材）の上に乗り、建地単管（長さ3.6m・重さ約13kg）を外していたところ、雨で足が滑った際、建地単管を手放してしまったところ、この建地単管が地上にいた被災者の方へ倒れ、被災者（保護帽着）の頭部に当たり被災した。被災時、被災者の意識が無く、翌日死亡した。	30202	4	1～9
		12	被災者は、長さ約1.3m、重量約10kgのステンレス棒を旋盤に固定して最高速で回転させ、サンドペーパーを用いて旋盤の外に出ている85cm程の部分の表面を削っていたと推測されるが、ステンレ			10～

2018	9	～ 13	ス棒が旋盤への固定部分付近で約27度曲がり、本来の回転軸の軌道から大きく外れて回転したため、被災者の胸部から腹部にかけて激突したものの。	11301	6	29
2018	9	～ 17	鋼棒表面加工工場にて、出荷前製品置場の金属製ラックの中に、盤木を介して4段積みされた丸鋼の最上段の丸鋼（長さ3.067m、直径16cm、重量480kg）1本が1.14mの高さから転がり落ち、そばにいた派遣労働者が下敷きとなったもの。	11209	4	30～ 49
2018	9	～ 9	被災者は、ロッド（直径19mmの鋼線が、直径約1m、幅約1mの円柱状に巻かれているもの。重さ2トン）を酸洗するにあたり、ロッドを横置きにして立てかけ、鋼材をきつく固定していたバンドを切って、酸洗のため鋼線が重ならないよう、巻きを緩め、鋼材がバラバラにならないよう番線でロッドを緩めに縛る作業を行っていたところ、立てかけていたロッドが被災者側に倒れ、被災者は下敷きとなり死亡したものの。	11209	5	10～ 29
2018	10	～ 9	材料（金属製直径17.2cm、長さ20cm）を定格能力6トンの油圧ハンマーで鍛造するため、炉から出た当該材料がコンベアで搬送された後、送り台からハンマーの金型上へシリンダーにて押し出す際、送り台の側面開口部（長さ25cm）から床へ落下したため、被災者が専用治具の手箸を用いて元に戻そうと持ち上げたところ、着用していた前掛けに接触し、かつ引火したことを起因として全身火傷、その後死亡したものである。	11001	11	50～ 99
2018	10	～ 13	橋桁（PC桁）の製作に使用した鋼製型枠を片付けるため、型枠を4段に積み上げ、フォークリフトを用いて運搬していたところ、荷崩れが発生した。門型クレーンでつり上げ、3段目の型枠を積み直した際、2段目の型枠の一部に引っかかったため、つり上げたままの3段目の型枠を押し入れようと型枠の下に頭部を入れて、手で押していたところ、引っかかりが外れ、3段目の型枠が落下し、型枠の2段目と3段目に挟まれたもの。	10901	7	10～ 29

2018	10	12 ～ 13	製品である自動車のギヤボックスの金型（高さ約2 m、幅約1.7 m、厚み約50 cm；重量約2トン）を天井クレーンで移動し床上に直立させ、出荷前の梱包のため、包装用フィルムを巻き付けながら金型の周囲を回っていたところ、当該金型が倒れ掛かってきてその下敷きとなり被災した。	11301	5	30～ 49
2018	11	12 ～ 13	被災者は河川の岸側において鋼矢板の圧入作業のための溶接、玉掛け業務に従事していた。被災者が鋼矢板を玉掛けした後、クレーンのOPが吊り上げられた鋼矢板をパイラー上まで移動させ、鋼矢板の移動後、パイラーの近くにいた別の作業員が鋼矢板のセクションにあわせていた際、鋼矢板に溶接で固定されていたウォータージェット用の鋼管が外れ、岸側にいた被災者を直撃した。	30107	4	50～ 99
2018	12	14 ～ 15	トラックに架設ベント材（50×50×500 cm、重量764 kg）を積み込む作業を行っていた。移動式クレーンを用いて3列3段に下から順に積み込み、最後のベント材の玉掛け用ワイヤロープをベント材から外す際、クレーンを巻き上げることにより玉掛け用ワイヤロープをベント材から抜いたため、玉掛け用ワイヤロープがベント材に引っかかりベント材が2.5 m落下し、被災者に当たった。	30105	4	1～9
2017	2	10 ～ 11	5階建ての建築物の新築工事現場において、移動式クレーンを使用して、トラックで搬入した鉄骨梁（長さ約7.3メートル）を現場内に仮置きする作業中、同僚と2名で玉外し作業を行っていた被災者が、架台（高さ約1.9メートル）の上を下ろした鉄骨梁から玉掛用具を取り外した後、架台から地上に落下した鉄骨梁に激突され、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	30201	4	10～ 29
2017	2	8 ～ 9	横梁ウェブパネルの組立作業において、横梁ウェブ（鋼板）の上に仮付溶接された大型リブが、組立溶接の準備作業を行っていた被災者の上に倒れ、被災者は頸椎と脳幹部を損傷し、病院に搬送された。その後病院にて死亡した。	11209	5	100 ～ 299
			被災者と代表者の二人で、コンクリート二次製品用鋼製型枠の改造作			

2017	2	14 ～ 15	業（サイズ変更）を行い、その後、被災者一人で当型枠本体に型枠の開閉部分の鋼製の部材（重量約100kg）を締付チャック・ボルトで固定作業中、この開閉部分の鋼製部材が倒れ、もう一つの型枠の間に胸部をはさまれた。	11209	5	1～9
2017	2	14 ～ 15	被災者は、屋外の借地において、既にスクラップとなった移動式クレーンの上部旋回体や上部フレーム等の大型金属部材を、客先の要望に応じた大きさに細分するため、一人でガス溶断作業を行っていたところ、上部フレームをガス溶断で断ち切ったとき、ガス溶断した部材が被災者の方向に倒れ、その部材の下敷きとなって被災した。	11209	6	30～ 49
2017	3	10 ～ 11	ターニングロールに載せて製造していたタンク（熱交換器（圧力容器適用外）、円筒形、長さ約5m、内径92.5cm、重量約1t）内の清掃作業を行っていた被災者がタンクのノズルから体を乗り出してタンクの外にある掃除機を取ろうとしたところ、タンクが回転しノズル（内径約80cm）と地面との間に上半身が挟まれた。被災者は意識不明の状態での病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	11301	7	30～ 49
2017	3	14 ～ 15	高さ1.58mに設置された6.8m×4.2mの鋼製構造物上にて、被災者ほか1名が当該構造物の歪みを矯正する作業を行っていた。矯正作業のために使用していた鋼制定規（長さ7m×高さ30cm×厚さ2.2cm重さ約360kg）を数力所溶接にて取り付けていた途中、大きな音とともに溶接箇所が外れ、被災者と定規が鋼製構造物上から墜落・落下し、被災者の大腿部の上に鋼制定規が落下して被災した。	11301	4	30～ 49
2017	4	10 ～ 11	資材置場において、水門用のH鋼の溶接作業を行っていた。溶接作業終了後に、クレーンでH鋼（重量約2.0t）を3cm程度つり上げたところ、H鋼のバランスが崩れ、被災者の首付近に当たり負傷した。	11209	6	10～ 29
		14	鉄骨建方作業を行う為、トラックからレッカーを用いて鉄骨を降ろす作業中、7本あるうちの4本目を降ろすにあたり、トラックの荷台に			

2017	5	～ 15	置かれた鉄骨上に上ったところ、当該鉄骨が動いた反動で、被災者はトラックから地面に墜落するとともに当該、鉄骨（0.8 t）も被災者の上に落下した。	30201	4	1～9
2017	5	12 ～ 13	コイル（ロール状の鉄板）を切断加工するスリッターにおいて、被災者は、コイルを供給する装置であるアンコイラーへ重量11.92 tのコイルをセットする際、コイルカー（アンコイラーへコイルをセットする装置）から転落した当該コイルに激突された。	11009	4	50～ 99
2017	8	14 ～ 15	溶融亜鉛めっき槽付近の床のスラップ等の清掃作業中、床に倒れている状態で発見された。死因は気道熱傷、口の左半分の一部に火傷が見られた。	11204	11	100 ～ 299
2017	10	8 ～ 9	工場の敷地内において、2名でトラック荷台からH鋼を門型クレーンで荷降ろす作業を行っていたところ、玉掛けのため、荷台上ろうとし荷台上のH鋼又はその下の端太角につかまったところ、H鋼（約750 kg）が被災者側に崩れ、被災者の胸部に落ち、下敷きになり、心臓破裂により死亡した。	11209	5	10～ 29
2017	11	12 ～ 13	長さ45 mのガス管（約900 kg）を敷設溝に向けて横向きに運搬中、台車に載せていたガス管が掘削溝に落下しそうになったため、これを止めようと掘削溝に入った被災者がガス管の下敷きになり死亡した。	30199	4	10～ 29
2017	12	14 ～ 15	RC橋脚下部工における脚柱の鉄筋組み立て工事中、主筋に帯鉄筋を所定位置に配筋するため、帯鉄筋を4本1セットとして主筋の上段から中段に掛けて3セットを結束線で仮固定していたところ、結束線が破断したことにより帯鉄筋が落下し、帯鉄筋の直下で作業を行っていた被災者に激突した。	30105	4	1～9
		8	道路脇の落石防護用の金網内に堆積した土砂（高さ約1.5 m）の除去を行うために、被災者は金網下端にワイヤーロープを通してドラグ・ショベルのフックに掛けて金網を捲り上げ、その下端を金網中ほ			30～

2017	12	～	どの位置にコイル状ワイヤーで固定した。その後、ワイヤーロープをフックから外したところ、固定していたコイル状ワイヤーが解け、金網の捲り上げられていた部分が元に戻る際に被災者に激突、被災者は道路に墜落し、頭部を強打した。	30106	6	49
2016	2	13 ～ 14	被災者は、第二工場内の25ヤードにおいて、床上操作式天井クレーン（つり上げ荷重5.07t）にて山留材（約3.3t）を運搬中であつた。クレーンが停止したままの状態なので不思議に思った同僚が確認したところ、床に倒れている被災者を発見した。	11209	1	10～ 29
2016	5	11 ～ 12	被災者が構内の製品ストックヤードで別の請負事業場の労働者2名と建築用鉄骨柱（500mm×500mm×8,740mm、重量：約2t）のケレン（塗装前処理）作業中、架台鋼材上に置かれた鉄骨柱の張り出し部分に乗ったところ、鉄骨柱が回転し、その柱にある別の張り出し部分が被災者の頭部に激突した。	11209	6	1～9
2016	11	8 ～ 9	被災者は、ビル建築工事で使用する鉄骨を、トレーラー（15t）にて運搬し、同建築現場内でトレーラーの横の地上にて、現場所属のトビ工による荷卸し作業の補助を行っていたところ、荷崩れによって、荷台上の鉄骨1本（約250kg）が落下し、頭部を直撃し死亡した。	40301	4	10～ 29
2016	12	8 ～ 9	被災者が所属するラインの作業開始前ミーティングの後、当該ラインで製造している鋼管の原料となる幅10cmの鋼板がドーナツ状に巻かれたコイルの置場において、被災者が何らかの作業のため立てて保管しているコイルの倒れ止めを外したところ、厚さ10cm、直径164cm、重量1520kgのコイル1巻が倒れて、被災者が、当該コイルと床面の間に挟まれた。	11209	5	10～ 29
2015	9	16 ～	片脚橋形クレーン（つり上げ荷重2.0t）でH形鋼（50×30cm、長さ10.05m）を移動している際に、積み上げに使用していた枕木（幅7.5cm、厚さ6.0cm、長さ105cm）が、切断し、H形鋼が崩れたため、片脚橋形クレーンの支柱とH形鋼に腹部を	11209	5	10～ 29

		17	挟まれたもの。H形鋼は、2段積んだ上に枕木を乗せ、その上に5段積んでいた。5段積んだ重量は、約6t。			
2015	2	8 ～ 9	鉄工場において、作業員3名（うち1名が経営者）が金属製の鉄板を加工して非常用発電機用の煙突を作成していた。煙突は長さがあるため、いくつかのパーツに分けて組立られ、作成しながら次の工程で使用する鉄板の移動も行っていた。鉄板は14枚が鉄工場内に立てかけられ、そのうちの4枚を移動しようと3名で引きはがしていたところ、14枚全部が倒れ3名の上半身がはさまれた。	11209	5	1～9
2015	8	13 ～ 14	船体ブロック組立て作業中、被災者がブロック側壁の窓枠部分から身を乗り出して、当該側壁を支えているレバーブロックを巻こうとしたところ、当該側壁とともに倒れ、隣接するブロックとの間で顔面及び頭部を強打し、脳挫傷により即死したもの。	11501	5	10～ 29
2015	10	15 ～ 16	被災者は工場内に長さ6m、重量200kgの河川設置用柵を6列、自立させて並行に並べ、1列目の壁側に立って塗装作業を始めたところ、何らかの原因により奥側6列目から柵が次々に被災者側へ倒れ始め、被災者は柵と共に床に倒れ、頭部を打ち付けた。同僚らが直ちに救助し病院へ搬送されるも、意識不明になり、8日未明に死亡が確認された。作業時に保護帽の着用はなかったもの。	11209	5	1～9
2015	6	16 ～ 17	解体したクレーンの鉄屑をガス溶断していたところ、溶断していた鉄板が倒れて、災害当日に死亡したもの。	11209	5	30～ 49
2015	8	14 ～ 15	被災者は、LNGタンク建設工事現場において、底板の溶接作業に従事していた。同時刻、タンク内の高さ44.2mの足場上では、他の事業場の労働者が吊りピース（7.6kg）を屋根の梁に溶接する作業を行っていた。この作業は、吊りピースを持つ者とその反対側から溶接する者の2人作業であるが、吊りピースを持っていた者が何らかの原因により感電し、吊りピースを落としてしまい、吊りピースが被	30302	4	50～ 99

			災者の背部に当たったもの。			
2015	2	11 ～ 12	造船所構内にて、船体ブロック両側面の傾斜部（高さ約2メートルの位置）に掛け渡す形で乗せていた補強鋼材（長さ約8メートル、重さ約1.66トン）が滑り落ち、近くで溶接作業を行っていた被災者の上半身に当たり、死亡したものの。	11501	4	1～9
2015	9	14 ～ 15	被災者他3名は円筒状の鉄柱（φ約50cm、長さ約10m、重量約1.6t）の溶接部に対する検査を行っていた。当該鉄柱は横に倒された状態であったため、円周に沿って溶接された箇所のうち、下部溶接部の検査はそのまま出来ないことから、当該鉄柱を回転させる作業を行う必要があった。被災者が当該鉄柱の外周上部に手を掛けて回転させたところ、回転した鉄柱と背後の建屋壁に頭部をはさまれ、死亡したものの。	170209	4	100 ～ 299
2015	9	9 ～ 10	25tトレーラーにH鋼（計12本）を二段積みにし配送先へ運搬した。配送先で橋形クレーンでの荷卸しに備え荷を固定していた4か所のチェーンブロックを外し、荷台上で玉掛け作業の準備をしていたところ、H鋼（長さ12m×幅85cm×フランジ部30cm。重量2.878t）が倒れ、被災者は上半身を挟まれ死亡した。	40301	5	100 ～ 299
2015	9	13 ～ 14	造船工場において、部材を仮止めしている船舶部材（600kg）を本溶接するためにつり上げ能力2.8tの天井クレーンを用い吊り上げ、約1.5m移動させ当該部品を下ろそうとしたところ、当該部品が吊っていたクランプから外れ、近くで作業をしていた被災者に激突したものの。	11501	6	1～9
2015	3	18 ～ 19	被災者は天井クレーン（つり上げ荷重7.65トン、無線操作方式）を使用して鋼板コイル（鋼板をロール状に巻いたもの）の移動作業を行っていたが、先に移動させ立てかけて置いていた鋼板コイルのうちの1つ（コイルの直径173cm、幅20cm、重さ3.1トン）が倒れてきて、被災者が下敷きとなったものの。	11001	5	30～ 49
			ボイラー用の集じん機の碍管（がいかん）室（鉄製の箱状の構造物、			

2015	10	0 1	断面が縦約1.3m、横約2.4m、長さ約9.5m)を製作する作業中、労働者2名で、鋼材のゆがみ等を手動のチェンブロック2個で引張って調整していたところ、鋼材が突然倒れチェンブロックを操作していた労働者の頭部を直撃した。	11301	5	50~ 99
2015	5	8 9	被災者は、海外に輸出するための自動車部品を物色するために取引先の自動車解体業者の解体ヤードを訪れたものであるが、8時35分頃、廃車として置かれていたフォークリフトのマストと、その横にあったもう1台の廃車フォークリフトのヘッドガードの間に挟まれているのを後から来た会社代表者が発見したものである。目撃者なし。	80109	7	1~9
2015	4	13 14	工場内に積み重ねられた建設用資材(H鋼)(以下「荷」という。)を積み替えるため、クレーン操作者が床上操作式天井クレーン(つり上げ荷重2.8トン)を使用して、仮置き場所に運搬し、地切り状態で荷の周囲の確認を行っていたところ、クレーン操作者と共に荷の積み替え作業をしていた被災者の叫び声が聞こえたため振り向くと、崩れ落ちた荷に胸部及び腹部を挟まれた状態の被災者を発見した。被災者は翌日死亡した。	11209	5	1~9
2015	10	13 14	被災者がL型の柱(長さ:4.9m×2m、重量:約1t)の研磨作業をしていたところ、柱が被災者側に倒れてきて、被災者の頭部に激突した。柱は、H鋼(横25cm×高さ45cm×長さ1000cm)に二点支持で設置されており、一点には水平にするための枕木を使用していた。	11209	5	1~9
2014	9	15 16	被災者は、直径2.5m、幅13cmの鉄製リング1つ、及び直径2.5m、幅25cmの鉄製リング2つの合計3つの鉄製リング(合計の重さ340kg)を手で転がして移動させ、仮置き場に並べた後に車輪止めをし、近くにあった鋼材(倒れ防止のために使用する)を取るために鉄製リングに背を向けて移動したところ、当該リングが横倒し、はさまれた。	170101	5	10~ 29
			「取鍋」と呼ばれる容器に入った、推定1300度の溶解した合金を			

2014	2	5 ～ 6	<p>鑄型に流し込む作業中、天井クレーンを用いて鑄鉄機（取鍋を傾けて鑄型に流し込む装置）に取鍋を移動させたところ、取鍋内の合金が爆発して同合金が飛散し、移動後の取鍋を鑄鉄機に固定するため、取鍋から約2メートルの位置に移動していた被災者が全身に溶解した合金を浴び、焼死した。</p>	11001	14	100 ～ 299
2014	4	7 ～ 8	<p>溶接チャンネルラインにて、被災者は、給材架台上の番線結束された溝型鋼14本の束の番線を外したところ、鋼材が被災者側に崩れ、後ろに置かれていた別の溝型鋼の束との間に胸部等を挟まれ、死亡した。</p>	11009	5	30～ 49
2014	5	13 ～ 14	<p>鉄骨鉄筋コンクリート製の躯体の配筋作業中、躯体鉄骨から張り出された鋼製のアングルによる鉄筋用足場兼鉄筋仮置き架台に鉄筋を載せ、さらに足場部分に同僚3名が乗って作業していたところ、アングルが変形し、積載鉄筋が落下。架台の下で作業中の被災者が下敷になり、死亡した。</p>	30102	4	30～ 49
2014	5	9 ～ 10	<p>鉄骨を橋形クレーンで移動させ、接地させた際、鉄骨が倒れ、運転していた被災者は、隣にあった別の鉄骨との間に挟まれた。</p>	11209	5	10～ 29
2014	7	17 ～ 18	<p>水道建設工事現場にて、土止め材を移動させるため、移動式クレーン機能付きドラグ・ショベル、ワイヤーロープ及びつりクランプによりつり上げたところ、つり荷がつりクランプから外れ、下にいた被災者の上に落下した。</p>	30199	4	10～ 29
2014	8	15 ～ 16	<p>耐震補強材パネルの搬入作業中、搬入口に仮設スロープを作り、複数名でチェーンブロックを用いて斜め方向に引き、パネルを支え、台車の方向を調整し、スロープ上を移動させていたところ、パネルが転倒。被災者が下敷きになり、死亡した。</p>	30209	6	100 ～ 299
2014	8	15 ～ 16	<p>斜めに立てかけていた鋼材下部の突出した部分をガス切断作業中、鋼材が被災者に倒れ、鋼材の下敷きになった。</p>	80109	5	1～9

2014	8	18 ～ 19	工事現場にて、柱筋の地組を行っていた際、組立中の柱筋6台を立てた状態でクランプ留めしていた架台が転倒。柱筋配筋作業に従事していた複数の被災者が、鉄筋等の下敷となり、うち2名が死亡した。	30209	5	1～9
2014	8	18 ～ 19	工事現場にて、柱筋の地組を行っていた際、組立中の柱筋6台を立てた状態でクランプ留めしていた架台が転倒。柱筋配筋作業に従事していた複数の被災者が、鉄筋等の下敷となり、うち2名が死亡した。	30209	5	1～9
2014	10	8 ～ 9	加工を終えたH型鋼を5段積み上げたところ、最上部の鋼材が床面に落下し、別の鋼材を移動させる作業を行っていた被災者の背中から頭部に当たった。	11209	4	10～ 29
2013	10	10 ～ 11	被災者は、コイル置き場のコイル材（重量約1t）を機械にセットするため取ろうとしたが、密着した状態にあったため、玉掛用ワイヤーロープが通るだけの隙間を設けようとした、あるいは隙間に玉掛用ワイヤーロープを通そうとしたところ、コイル材が転倒した。被災者は、コイル置き台に体半分を入れていた為コイル置き台の鉄枠と、転倒したコイル材に胸部を挟まれた。	11203	7	30～ 49
2013	3	16 ～ 17	被災者が1人で、2段に積み上げられたH鋼（高さ80センチメートル、幅30センチメートル、長さ8メートル90センチメートル）の傍らで、グラインダで研磨作業を行っていた際、H鋼が崩れ下敷きとなって死亡した。	11209	4	1～9
2013	7	15 ～ 16	屋外作業場（出荷場）において、プラント設備である鋼製部材の出荷準備作業を行っていたところ、直前に移動式クレーンで積んだ最上段（3段目）の鋼材（1.5トン）が荷崩れし、コンクリート床面に落下、その際、同部材が塗装作業を行っていた被災者に激突した。	11301	5	1～9
2013	11	12 ～ 13	20トン天井クレーンを用いて、積み重ねた鋼板5枚（約5トン）の上に置き、玉外しを行ったところ、降ろしたに鋼板とともに積み荷（鋼板約14枚）が崩れ、玉外しのために側にいた労働者2名が、崩れてきた荷と隣にあった荷（積み重ねられた鋼板）に挟まれた。	11209	5	50～ 99

2013	11	12 ～ 13	20トン天井クレーンを用いて、積み重ねた鋼板5枚（約5トン）の上に置き、玉外しを行ったところ、降ろしたに鋼板とともに積み荷（鋼板約14枚）が崩れ、玉外しのために側にいた労働者2名が、崩れてきた荷と隣にあった荷（積み重ねられた鋼板）に挟まれた。	11209	5	50～ 99
2013	2	10 ～ 11	建設現場で解体された足場板を小型移動式クレーン付きトラックに積み、足場材の所有者の倉庫まで運搬していた。荷崩れを発見した運転手が道路脇にトラックを止め、荷崩れを直していたところ、足場板（計50枚を番線で結束したもの）が落下し、運転手がその下敷きとなった（足場板1枚の重量12.5kg）。	80209	5	30～ 49
2013	7	15 ～ 16	橋形クレーンを用いてH鋼を荷降ろしをしていたところ、2段重ねに仮置きされたH鋼が、被災者の胸部に崩れ落ち下敷きとなった。	11209	5	30～ 49
2013	12	8 ～ 9	屋外作業場において、4.8tホイスト式橋形クレーンを用い、山留め鋼材を所定の置き場に運搬し玉外した後、ホイストを横行させたところ、予め積み上げられた山留め鋼材（高さ約3.5m）の上部に鍵手状の玉掛用具が接触し、山留め鋼材1本（1.1t）が落下、高さ約1mの鋼材上にいた被災者の頭部を直撃した。	11209	4	1～9
2013	11	16 ～ 17	ダム洪水吐ゲートの扉体を取り替えるため、解体した扉体（重量約4t）をケーブルクレーン（つり上げ荷重6.6t）で左岸側にある仮置き場に降ろした。玉掛用ワイヤーロープを取外すため、クレーンフックを下げ同ワイヤーロープを緩めたところ、解体した扉体が倒れ、脇にいた被災者に激突し、扉体と仮置き場に設置されていた手すりに頭部を挟まれた。尚、被災者は玉外しをするために扉体脇を移動していたと推測される。	30101	5	10～ 29
2013	5	10 ～ 11	屋外作業場において、被災者単独で建築用鋼材（約730kg）をホイスト式天井クレーンでつり上げ、出荷するための所定場所に積み上げる作業を行っていたところ、1.8メートルの高さの上に積み上げた鋼材が落下し、被災者が鋼材の下敷きとなった。	11209	4	1～9

2013	5	12 ～ 13	被災者は、外管に内管を差し込んだ状態のパイプサポート32本をワイヤロープ2本で玉掛けし、タワークレーンでつり上げていたところ、地上から高さ15メートルぐらいの位置で、32本のうち半数の内管が外管から抜け、そのまま地上に落下し、つっていた荷の直下若しくはその付近を通行していた被災者の頭に直撃した。尚、被災者は休憩中であったため、ヘルメットは着用していなかった。	30201	4	1～9
2013	5	8 ～ 9	門型クレーンを用いて山留材出荷の段取りを行うにあたり、門型クレーンの軌道上に3段に段積みしていた山留材があり接触する見立てがついたため、最下段の山留材の一方の端に玉掛けし、他方の端は地切りさせず支点とし、半弧を描く様に一方の端を数10cm移動させたところ、段積みになっていた山留材が崩壊した。状況を把握するため被災者が山留材に近づいたところ、再度山留材が崩壊し、被災者が下敷きになった。	80109	5	1～9
2013	5	14 ～ 15	工場の塗装等工事において、外部足場を解体中、足場材（ビティ枠35本、約400kg）を積み重ねて番線で縛ったものを車両積載型移動式クレーン（2.93t）にてつり上げたところ、足場材が落下し、下にいた被災者が下敷きになった。	30203	4	1～9
2013	2	11 ～ 12	事業場内で製品であるコンベアフレームを製作中、被災者は、作業台から高さ約1.6mの場所にあるコンベアフレーム上部に穴を開けるため、脚立を使い約1.6mのコンベアフレーム上部に足をかけたところ、コンベアフレームが傾き、転落した。	30302	1	1～9
2013	7	18 ～ 19	被災者は、400トンプレス機の製品段取り作業【コイル（重量：550kg）を段取り用コイルカーに載せる作業】を行っていたところ、コイルカーの下のピット内に鳩がもぐり込んでしまい、ピット内に被災者が入り鳩を捕まえようとしたところ、狭くて屈めず、コイルカーを他の作業者が動かしたところ、アンコイラー（コイル固定用心棒）とコイルの中心があっっていなかったため接触し、コイルが倒れ被災者頭蓋部に激突し死亡した。	11502	4	100 ～ 299

2013	6	7 ~ 8	被災者は、作業員2名で、鋼管（長さ約18m、重量約6t）を搬送ライン機械によって移動させ、刻印を打つ作業を行っていた。刻印操作盤（A端側）のロックを被災者が解除し、その合図を受けた同僚が自動印字ライン操作盤のロックを解除してキッカー（はね上げ装置）を作動させて鋼管を転がしたところ、鋼管の前方にいた被災者が鋼管端部に接触し、うつ伏せに倒れ鋼管に轢かれ、胸部圧迫に伴う心破裂により死亡した。	11001	7	100 ~ 299
2013	5	16 ~ 17	インジェクション成形機の金型保管場所で、金型を金属製ラックにし、もう作業をしている際、金型が手前に倒れてきて体の右側に当たり転倒した。	10805	5	100 ~ 299
2013	9	10 ~ 11	射出成型機（真空成型機）で使用する金型を移動式ラックに乗せ、当該ラックを動かしたところ、金型がラック上部のローラーを滑り落下（高さ1.56m）し、被災者の頭部を直撃した。尚、移動式ラック上部には射出成型機にセットするためのローラーが設けられており、端部には安全ストッパーが設けられていたが、使用していなかった。	10805	4	50~ 99
2012	11	15 ~ 16	資材置場において、被災者が新たに購入した鋼板を置きやすくするため、鋼板を立てて置く場所に仕切りとして設置してあったC形チャンネル材の溶断作業を行っていたところ、最後の1本を溶断中、鋼板置場に立掛けてあった鋼板が被災者を直撃した。	30309	5	10~ 29
2012	5	11 ~ 12	被災者は、荷主先の資材置場内に設置されていた覆工板を立てかけた状態で保管する設備（型鋼を溶接加工した構造）上において、覆工板と設備の一部との間に身体を挟まれた状態で発見された。なお、設備南側には、小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93t）がアイドリング状態のまま停車中で、ブーム先端が設備上に延び、玉掛け用具がフックに玉掛けされた状態であった。	40301	7	1~9
2012	3	16 ~ 17	被災者はトレーラーの荷台からコイル状の鋼材の荷卸し作業中に、当該鋼材4巻（約2.8t、直径1.5m）が何らかの原因で倒れたため、その下敷きになった。	40301	5	1~9

2012	3	9 ～ 10	工場内において、天井クレーン2基を用いてハッチカバーを相吊りする方法で反転させる作業を行っていたところ、当該ハッチカバーの端部が所定の荷受架台にセットできないため、被災者の合図で地切りしたところ、荷が振れ、荷の横にいた被災者が別のハッチカバーとの間に挟まれた。	11501	7	1～9
2012	8	15 ～ 16	被災者はタンク（重量約0.8 t）のマンホールを上にして架台上に設置（アングルで固定）し、単独でショットブラストにより表面処理を行っていたところ、他の作業者にタンクのマンホールと架台の間に挟まれている状態で発見され、救急搬送先の病院で死亡した。	11209	5	10～ 29
2012	4	9 ～ 10	工場において、40フィートハウスコンテナ組立てのため、被災者は天井クレーン（床上操作式、つり上げ荷重2.825 t）を運転して、コンテナ側板（質量約1 t、2点吊り）を立てた状態で移動させていたところ、クレーンの吊り具を掛けていたコンテナ側板に溶接されていた掛け金具の溶接部が剥がれてコンテナ側板が地上に落下し、一瞬地上で自立するも、被災者の方向にコンテナ側板が倒れ、下敷きとなった。	11503	4	50～ 99
2012	2	11 ～ 12	ポンプの金属部品（重量1.4 t）を溶接加工していた際、仮止めしていた溶接箇所が外れて当該部品が落下し、被災者が下敷きとなり死亡した。	11209	4	10～ 29
2012	8	15 ～ 16	SRC10階建の建物を5階建に改修する耐震補強工事において、7階スラブ上でコンクリート外壁（パイプスペース）部をワイヤーソーを用いて切断する運転作業を行っていたところ、ワイヤーソーのジョイント部より、金属片（ダイヤモンド入り）ビーズが外れ、被災者の右胸部に飛来し肺を貫通した。その後、直ちに救急搬送されたが、出血性ショックにより死亡した。	30201	4	1～9
2012	9	11 ～ 12	コンクリート2次製品製造工場（ED1）の解体工事で使用した足場を解体する作業において、足場の4層目の作業床にいた労働者が持っていた交さ筋かい2組のうち、1組が落下し、地上で同筋かいを受け取る役割をしていた同事業場の被災者の鎖骨を貫通して胸まで到達し、被災者	30209	4	1～9

			は出血性ショックで死亡した。			
2012	8	14 ～ 15	トラックで運ばれてきた鋼材144枚（約12 t）を、天井クレーン（定格荷重20 t）を使用して、資材置き場に先に積んであった鋼材の上に積み重ね、被災者が玉外しを行おうと近づいたところ、直前に積んだ鋼材144枚が崩壊してその下敷きとなり、全身を強く圧迫され死亡した。	11502	5	300 ～
2012	5	9 ～ 10	アルミパイプを加工する機械の修理作業中、その部品である鋼棒（Φ10mm、L550mm）を内製機械（旋盤のチャックを流用した保持器にワークを固定し、モーターで回転させ、ワークの研磨を行うもの）で研磨していたところ、ワークに側頭部を弾かれ、搬送先の病院で死亡した。	11101	6	30～ 49
2012	8	16 ～ 17	被災者はショットブラストで鋼材を研磨加工をしていたところ、積み重ねていたH型鋼材（長さ約3m、重さ約300 k g）が崩れ、この下敷きとなって死亡した。	11209	5	10～ 29
2012	6	18 ～ 19	翌週の作業の準備終了後、被災者は製品置き場にあった金属製ラックにぶら下がったところ、ラックが倒れ、その下敷きとなって死亡した。	11209	5	30～ 49
2012	1	8 ～ 9	被災者は段差のある地山（全5段）3段目の既設半円コルゲート管（排水管）を撤去した雨水柵設置場所で、上方からの土砂及び転石落下防止のコンパネを土留柵に設置する作業を行っていた。その際、斜め上方法面では、他業者が重機足場に使用する単管を法肩から下ろす作業を行っており、うち1本がコルゲート管上に滑り落ちてコルゲート管上を約20m滑走し、被災者の右側頭部に激突した。	30108	4	10～ 29
2011	8	15 ～ 16	造船所において、被災者が船体ブロックの一部となる鉄骨材に鋼板（約780キログラム）を仮付け溶接する作業等を行っていたところ、当該鋼板に落下防止措置を講じていなかったため、鋼板が高さ約165センチメートルの位置から倒れ落ち、被災者の頭部を直撃したものの。	11501	4	30～ 49
			被災者は、一人で定格荷重4.8 tの床上操作式クレーンを使用し			

2011	7	13 ～ 14	て、鋼板（縦2.5m、横2.1m、厚さ17mm、1枚の重量410kg）2枚を重ねた状態でハッカーにより2点吊りの状態でつり上げて移動中に、落下した鋼板が足に当たり、転倒した際に保護帽が横に置かれた鉄材に当たり脱げ、床で頭部を強打したものと推定され、同日死亡したものの。	11501	2	100 ～ 299
2011	2	10 ～ 11	製鋼原料とするため金属スクラップ（鋼材）のガス溶断作業を行っていたところ、当該鋼材の一部が倒れ、下敷きとなったもの。	11009	6	50～ 99
2011	8	8 ～ 9	工場内で被災者が、建屋の鉄骨に立てかけてあった製作中の歩廊（長さ5.4m・幅2.3m・厚さ0.2m・重さ約1t）を天井クレーン（定格荷重2.8t）で塗装場所に移動させるため、同僚の指示でクレーンのフックにワイヤーロープを掛けようと歩廊に足をかけて上ろうとしたところ、歩廊が倒れ、胸付近より下部が下敷きとなった。また頭部も地面で強打し、心臓破裂・脳挫傷により死亡した。被災者は保護帽未着用。	11209	5	1～9
2011	12	12 ～ 13	事業所構内において、廃棄すべく大管モールド（＝鋳鉄管の鋳型、金属製、円筒状、直径1,600mm、長さ1,800mm）のガス溶断作業を、請け負った会社所属の被災者外1名が、分割・切断作業（縦置きで12片に分割）を行っていたところ、被災者が倒れてきた切断片（約600kg、800mm×800mm）の下敷きになったもの。	11002	4	1～9
2011	6	10 ～ 11	工場内で鋼管製の橋脚の製造を行っていた被災者が、外径110cm、長さ82cm重さ約1tの鋼管をH鋼に車輪を上向きに2カ所取り付けた設置台2本を並べた上にクレーンで横向きに載せ、周溶接を行うための裏当て金を取り付けていたところ（推定）、当該鋼管が設置台からずれ落ち半回転する形で倒れたため、鋼管の内面にドーナツ型に取り付けられていたスチフナー等に上半身を挟まれた。	11209	5	1～9
			被災者は、現場打ちコンクリート杭用の鉄筋籠（直径2.5m、長さ			

2011	10	15 ～ 16	7mの円筒形、重量2.3トン)のボルト止めされた主筋(鉄筋籠は、補強リング、主筋、フープ筋の3つの部材で構成)の取り外し作業を行っていた。66本の主筋のうち20本が完全に取り外されている状態で、鉄筋籠を回転させようとしたところ、鉄筋籠が被災者のいた方向に転がり、転がった鉄筋籠と隣にあった別の鉄筋籠との間に頭部を挟まれ脳挫傷により死亡。	30106	7	30～ 49
2011	4	13 ～ 14	(092)3月11日の地震に伴う液状化現象により、鋼材を積んだ倉庫内に泥が隆起したため、泥を除去する作業中に発生。3人の作業員がI形鋼を5段積んだ鋼材の山をクレーンで他の場所に移動させ、当該部分に隆起した泥をスコップで一輪車に積み込み、外に運搬する作業中、隣に積まれていたI形鋼13段(高さ約1m)の山が突然倒れ、近くにいた被災者が下敷きになり死亡した。	80109	5	1～9
2011	4	11 ～ 12	作業架台を解体作業において、作業開始時、架台の脚部に掛けていた倒壊防止用の玉掛け用布ロープを外した状態で架台の天板を確認していたところ、架台が作業側側に倒れ、腰を挟まれ内臓破裂により死亡した。	11209	5	1～9
2011	12	10 ～ 11	座礁した堆砂処理船をガス溶断して分解撤去するため、L字状に残った船の側壁をガス溶断していたところ、溶断途中で破断して、側壁が被災者の方向に倒壊して下敷きになった。	30309	5	10～ 29
2011	5	13 ～ 14	道路舗装工事中の路肩に2段積みで仮置きしていたガードレール部材(1束20枚、長さ約4.3m、重量約1.3トン)を車両積載形トラッククレーン荷台に積み込み作業中、玉掛け作業に従事していた被災者は、上段の同部材を玉掛けしようとした際、同部材が崩れ落ち、同部材とともに法面(法長約6m、直高約3.5m、勾配約35度)を転落し、同部材と工事用道路面に頭部を挟まれた。	30106	1	1～9
2010	12	15 ～	被災者は、工場内の仮置鋼材の上部(高さ約1.2m)に立って、ブルーシートをかける作業を行っていたところ、側方へ墜落した。鋼材の側方には玉掛け用具(長尺鋼板用)が置かれていたため、当該玉掛	11301	1	10～

		16	け用具の上部に突出している丸鋼（直径約1 cm）に被災者の側頭部が激突した。			29
2010	11	10 ～ 11	自社工場内において、被災者は、H鋼（120 cm×117 cm×25 cm、重さ約230 kg）に、最大使用荷重500 kgのつりクランプ2個を用いて玉掛けし、天井クレーン（2.8 t）にて溶接作業場所まで移動させる際、H鋼を立ててクランプのかけ替え作業を行っていた時に、H鋼のバランスが崩れて当該H鋼とともに倒れ、被災者がその下敷きになったもの。	11209	5	30～ 49
2010	11	13 ～ 14	被災者は長さ2.5～4 mの単管約60本の束を2.93 t吊り積載型移動式クレーンの荷台に積み込むため、無線操作し地上よりつり上げて旋回したところ、荷が傾き落下し、移動式クレーンにもたれかかる状態となった。被災者はもたれかかった荷を地面に下ろすため玉掛け用ワイヤーロープを外し、再度玉掛けを行っていたところ荷が倒れ、荷と共に荷台より墜落し、荷と地面に頭を挟まれた状態となり死亡した。	40301	5	30～ 49
2010	11	9 ～ 10	機械工の被災者が1人作業で、重さ約400 kgの円形の鋼材（名称：外輪）を切削加工機械で切削加工をするために、30 tのクレーンで吊り上げて、外輪を固定するための金具（2箇所）に外輪を仮置きして、クレーンのフックからワイヤーを外したところ、外輪が倒れかかり、被災者が外輪の下敷きとなり死亡した。	11209	5	1～9
2010	10	8 ～ 9	トラック（積載荷重2.6 t）の荷台に積まれた荷（サッシを立て掛けて置いておくための鉄製のラック、縦4.5 m、横71 cm、高さ34 cm、重さ70 kgの10個重ねを3列、合計30個）を固定していたワイヤーの荷締め機を緩めて外したところ、荷が崩れ落ち、落下した荷の下敷きになって死亡したもの。	150102	4	1～9
2010	7	17 ～	被災者は、2 tのトラッククレーンのオイル交換を1人で行っていた。荷台には配送用の鉄筋の束が積んであり、被災者が何らかの理由	40301	4	50～

		18	で荷の止めベルトを外したところ、鉄筋の束（重量約700kg）が崩れて下敷きになったもの。			99
2010	7	11 ～ 12	被災者は、鋼管柱8本を8tトラック（2.9t積載型移動式クレーン付）に2人で積込み、移動式クレーンのアウトリガに上がり積込み状況等を確認していたところ、積んでいた鋼管柱が崩れて落下した。アウトリガに上がっていた被災者も転落し、頭部に落下した鋼管柱が激突し死亡した。	40301	4	50～ 99
2010	5	12 ～ 13	被災者が1人作業で、7m鋼材を天井クレーンでつり上げて、積み上げられた鋼材の上（高さ129cmまたは173cm）を歩いてペンダントスイッチを操作して移動していたところ、足を踏み外して床に転落し、首の骨を折り死亡した。被災者が昼休みになっても事務所に戻って来ず、不審に思い工場内を見に行った事務員が被災者を発見した。	11209	1	1～9
2010	3	10 ～ 11	工場敷地内の屋外製品置場において、被災者（技能実習生）と同僚は製品の受け台（H形鋼で600mm×200mmを2本並列）の上に置かれている大梁（建築用の大梁のH形鋼、500mm×200mm（14本）を2層に積み上げた状態）に雨がかからないように養生シートを被せ、大梁の下に入り、養生シートを固定するため紐を掛けていたところ、製品の受け台が倒れたため、大梁が40cm下降して挟まれた。	11209	5	1～9
2010	3	10 ～ 11	厚板工場の鋼片ヤードにおいて、労働者2名が、（前日に半分に切断されて積み重ねて置かれていた）厚板の切断面の点検作業をしている時に、厚板の置き方が不安定だったため、突然、当該厚板が崩れ落ち、下敷きとなったもの。当該厚板は、大きさ約210×115cm、厚さ約30cm、重さ約6tのものが約半分に切断されたものであった。また、当該厚板は、鉄製のブロック（約25×25cm、高さ約15cm）2コの上に置かれていた。	11001	4	1001 ～ 9999
			工場内の製品出荷場所において、出荷を担当する被災者が、上段の鉄			

2010	1	14 ～ 15	骨が崩れて胸部を鉄骨に挟まれた状態で発見された。被災者は災害発生日の翌日に出荷を行う建築用鉄骨（長さ4.645m、幅0.55m、重さ約2.5t）を橋型クレーンにて上下2段積みで出荷場に並べる作業を1名で行っており、目撃者はいない。発見時、玉掛け用具は鉄骨から外れた状態。使用していたクレーンのつり上げ荷重は10.1t。玉掛けは3.2t用つりチェーンを使用。被災者は資格有。	11209	5	30～ 49
2010	1	18 ～ 19	建築物用のH鋼柱（長さ約8m、重量約3.5t）製作作業において、被災者が鋼板の溶接作業をしようとH鋼柱を横にして2台の架台（高さ1.2m）の上に載せ、H鋼柱の仕口（梁を取り付けるために張り出した部分）に手を掛け乗ろうとしたところ、被災者側にH鋼柱が倒れ、その部材の一部が頭部及び腰部に強く当たり死亡した。もう1人の被災者は既にH鋼柱に乗っており、倒れるときに飛び降りて両足を骨折した。架台の上に置いたH鋼柱に転倒の防止措置をしていなかった。	11209	5	50～ 99
2010	1	9 ～ 10	トレーラーの荷台に鉄骨加工品（ビルの柱、1本500kg）を19本載せ、内5本を被災者を含む2名でワイヤーロープにて束ねていたところ崩壊し、荷台から5本とも落下した。被災者は鉄骨加工品が落下する前に自ら飛び降りたが逃げ切れず、トレーラー横に仮置きされた鉄骨加工品と落下した鉄骨加工品の間で頭部を挟まれ死亡した。	40301	5	10～ 29
2009	9	16 ～ 17	約1425℃の溶湯13.8tが入った取鍋を作業員Aが電動操作（取鍋と一体化している傾斜装置）で後傾させて作業員Bが温度測定を実施した。取鍋を水平に戻すため押しボタンを押したが動かなかったため何度か押していたところ、突然取鍋が反転し、溶湯が飛散した。	11209	11	300～
2009	5	11 ～ 12	被災者は、同僚3人と貨物用コンテナ横に置いていたバンパー等の廃材を片付けていたところ、当該コンテナに部分溶接して立てかけてあった鉄板（縦2m×幅6m×厚さ1cm×重さ約1,120kg）が倒れてきて、鉄板と廃車の間にはさまれた。	150102	5	10～ 29

2009	1	8 9	工場において、被災者が、製品である円柱形の巻取りドラム（直径約85cm、長さ約422cm、重さ約2.8t）を横向きに寝かした状態で据え付けていた台から移動させるため、ドラムを固定していたワイヤロープ等を止めるシャックルを外したところ、ドラムが台から転がり落ちて、被災者が転がってきたドラムと作業床との間にはさまれた。	11301	4	100 ～ 299
2009	10	8 9	トラックで、φ700mm、重さ約1.2tの鋼管9本を3本ずつ3段で固定して荷受先に搬送後、荷受先の用意した移動式クレーンを使用し、同僚と2人で荷降ろし中、3段目の3本の内2本まで降ろした時に残り1本が転がり落ち、下で作業していた被災者に落下した。	40301	4	30～ 49
2009	10	10 11	スクラップを溶かした後の鉄にならない鋼滓（ノロ）17.8tを入れた鍋を処理場に運搬するため、ノロ台車からノロダンプに載せかえ、運搬しようとして約20m移動させたところで、ノロが爆発し、飛び散ったノロが敷地内で待機していたタンクローリー等に飛散し、タンクローリーの運転席が炎上し、タンクローリーに乗っていた被災者が死亡した。	40301	14	30～ 49
2009	4	9 10	客先構内にて、低床ジブクレーン廃棄のため、移動式クレーンを用いて搬出作業を行っていた。廃棄機械はベースフレームの上に旋回フレームが載り、その上に起伏ウインチ、巻上ウインチ、制御盤があった。起伏ウインチ、巻上ウインチを搬出し、制御盤のみになった際、旋回フレームのバランスが崩れ、ベースフレームからずり落ち、同フレーム上で玉掛け作業補助を行っていた被災者が約1.9mの高さから墜落した。	150102	1	1～9
2009	6	14 15	火力発電所の脱硫装置のダクトとなる高さ約10m、幅約5m、重さ約2.5tの鉄板を方形に組む作業を行っていたところ、ダクトをU字型にまで組み上げたところで南側の鉄板が内側に倒れこみ、それに合わせて北側の鉄板も内側に倒れこんだため、内部で作業していた作業員3人がその下敷きとなった。	30201	5	30～ 49
		14	火力発電所の脱硫装置のダクトとなる高さ約10m、幅約5m、重さ約2.5tの鉄板を方形に組む作業を行っていたところ、ダクトをU字型にま			

2009	6	～	15	で組み上げたところで南側の鉄板が内側に倒れこみ、それに合わせて北側の鉄板も内側に倒れこんだため、内部で作業していた作業員3人がその下敷きとなった。	30201	5	30～ 49
2009	7	～	14 15	下水道の敷設工事にて溝掘削を行い、下水管を敷設後、埋め戻しの作業を溝内で行っていた。溝内の埋め戻し土が次の作業箇所流れ込むのを防ぐため、仕切りの鉄板（1.8m×0.9m、289kg）を溝内の土止め支保工の切梁に立て掛けるように仮置きし、少しの間、被災者が人力で鉄板を支えていたが、他の段取りをするため、溝内を移動した際に、突然、鉄板が倒れ、その下敷きになった。	30199	5	10～ 29
2009	10	～	8 9	つり上げ荷重15.2tの橋形クレーンで移動した2つのH型鋼材（H=1,000×400×12×32（mm）L=15,000（mm）、重量4.5t）の間に被災者が入り、H型鋼材のケレン作業を行っていたところ、事業場の代表者が運転する橋形クレーンの剛脚の補柱がH型鋼材に接触し、H型鋼材が被災者側に倒れ、2つのH型鋼材の間にはさまれた。	11209	6	10～ 29
2009	5	～	10 11	天井クレーンの走行レール取り換え工事において、被災者含む作業員3人は走行レールを巻き上げ機で水平移動させるために、レールの先端にワイヤーを取り付ける作業を行っていた。レールの先端にワイヤーを取り付け、ワイヤーが張った状態で休憩となったため、そのままの状態被災者が休憩所へ移動していたところ、何らかの原因で走行レールが落下し、被災者を直撃した。	30302	4	1～9
2009	2	～	10 11	プロテクター(板状の鋼材、重量1.7t)につりピースを溶接により仮付けして、シャックルをつりピースに取り付け、繊維ロープで天井クレーンにより1本つりの状態で、縦に起こしたところ、つりピースの溶接箇所が破断して、プロテクターが倒れて被災者が下敷きになった。	11209	5	30～ 49
2009	9	～	14	被災者は、商店の土場にてトラックからH形鋼（長さ4.5m×幅0.5m×高さ0.2m）の荷降ろし作業中、移動式クレーンでつり上げた同鋼材を高さ3.0mの位置に静止させていたところ、同鋼材が回転したため以前	150102	5	10～ 29

		15	から積み上げられてあった他の鋼材に激突し、この勢いで倒れた鋼材（総重量4.16t）の下敷きになった。			
2008	1	10 ～ 11	船体ブロックの小組み作業で、クレーンで運搬してきた部材(長さ3.33m、高さ2.45m、幅0.9m)からつり具を外したところ、部材が倒れて部材同士の間にはさまれ、死亡した。	11501	5	10～ 29
2008	8	17 ～ 18	被災者は造船所構内のブロック小組工場において、天井クレーンを使用して船体ブロック部材の配材作業をしていた。被災者が仮置きした船体ブロックの部材（630kg）が被災者の方へすべり落ちてきたため、当該部材の下敷きとなり死亡した。	11501	5	10～ 29
2008	4	16 ～ 17	船体ブロックの製造のための仮溶接作業を3人（クレーンオペ含む）で行っていた。ブロックの部品であるウェブビーム（重量2.5t）をクレーンで保持させて鉄板の上に立たせたまま仮置きして仮溶接を行った。片側だけレバーブロックを使用して、ウェブビームと下の鉄板を密着させた状態で玉はずしを行ったところ、レバーブロックで引いている被災者側へウェブビームが倒れて身体をはさまれて病院で死亡した。	11501	5	30～ 49
2008	7	8 ～ 9	I型鋼材（歩道橋の主桁、重量約1t）のひずみ取りの作業中、架台に立っていたI型鋼材が被災者に倒れてきた。被災者は当該I型鋼材に押し倒されて、被災者の後方に立てて置かれていた鋼材（歩道橋の横リブ）に身体を打ちつけて死亡した。	11209	5	30～ 49
2008	3	9 ～ 10	資材置場において、資材移動等を行うために移動式クレーン等を用いて5人の作業員で作業をしていた。被災者は移動式クレーンの付近でがれきの片付けを行っていたが、移動式クレーンの作業が開始されるため、移動式クレーンの付近から離れて別の移動式クレーンの部品であるアームが2つ重ねておいてある場所に移動した。そのときに2つ重ねてあるアームのうち、上の1つが転がり落ちて被災者に激突した。	30309	5	30～ 49
		11	S造8階建て事務所兼マンション解体工事現場の4階部分を解体するため、4階天井の鉄骨梁の柱付近の両端を溶断して解体を行っていた。被災者は、解体工事現場1階で車両系建設機械を運転して解体作業で出た			10～

2008	5	～ 12	廃棄物の整理を行っていたが、4階の解体作業区域の下に侵入したところ、解体していた長さ7m鉄骨（H鋼）大梁が落下し、鉄骨（H鋼）大梁と4階床にはさまれて死亡した。	30201	4	29
2008	11	～ 22	店舗改修工事において、既存建物6階部分に張り出したH鋼を切断して解体する作業を行っていたところ、一部を残して切断した状態の鉄骨片が突然破断して、450×158cm、長さ約60cm、重さ約50kgの鉄骨片が荷揚げより落下し、約22.15m下で搬出作業に当たっていた被災者に激突した。	30201	4	10～ 29
2008	2	9 ～ 10	被災者は、プレス機械を使用して自動車部品を製造していたが、原材料のコイル材がなくなりかけたため、隣接するコイルヤードに取りに行った。コイルヤードで使用するコイル材とは別のコイル材をクレーンで移動しようとして、立てかけられたコイル材とコイル材の間に木製のくさびを入れ玉掛けワイヤーをコイル材の中心部の空間に通したところ、コイル材が被災者側に倒れて下敷きとなった。	11502	5	50～ 99
2008	4	18 ～ 19	工場内の製品ストックヤードで4.8tの天井クレーンを使用して並べてある製品（鋼材）の上で選別作業を行っていた。被災者は、仮置きしてあった製品（H700×200mm、長さ8.3m、重量0.9t）にクランプを掛けようとした際にバランスを崩し、高さ1mの箇所から後方に倒れた。その際、天井クレーンの押し釘を押したため、クレーンが移動して仮置きした製品にクランプが引っ掛かり製品の下敷きになった。	11209	2	100 ～ 299
2008	1	15 ～ 16	工作機械のフレーム（鉄製のL字型、重量約1.4t、高さ2.6m×幅3.6m×厚さ0.16m、L字の底辺部分は幅0.85m）を工作台上で溶接作業を行っていたところ、フレームが倒れて溶接作業を行っていた作業員1名と、付近で現図を書いていた作業員1名が下敷きになった。溶接作業員は身体の一部をはさまれて軽傷、現図を書いていた作業員は身体を圧迫されて死亡した。	11301	5	50～ 99
		17	仮置きしていた組立鉄筋（重さ約2.1t、高さ2.4m×長さ約7m×最大幅			

2008	10	～ 18	1.7m) が崩れたため、立て直すために橋型クレーン2台を使用して組立鉄筋に単管を通し、その単管の2点に玉掛けワイヤーを通す作業をしていたところ、組立鉄筋が再び倒れて被災者が下敷きになった。	10901	5	10～ 29
2008	8	～ 11	工事現場において、ガス管（重量約2t、長さ6.5m）に窒素ガスを3.3メガパスカルまで充填して耐圧試験を行っていた。その際、ガス管に溶接された仮蓋（直径405mm、厚さ10mm）が破裂してガス管が10m、仮蓋が70m吹き飛んだ。被災者は飛来したガス管が直撃して死亡した。	30107	15	50～ 99
2008	3	～ 14	4tトラックにスキット（スチール梱包材）4枚(約194kg×3、約318kg×1)を2.8tクレーンで積み、スキット上で玉掛ワイヤロープを外していたところ、最上段のスキットが滑り落ちて、トラックの横を歩いていた被災者に激突し、隣に積まれていた鉄板との間にはさまれて死亡した。	11209	5	1～9
2008	8	9 ～ 10	事業場ヤード内において高さ約1.8m程度の鋼材上で草刈作業中に鋼材から墜落した。	11209	1	1～9
2008	4	8 ～ 9	フォークリフト（積載荷重2.5t）を使用して、車両積載形トラッククレーンの荷台へ配管（173kg）を積み込む作業中に、被災者が荷台上で荷役作業の補助を行っていたところ、バランスを崩して1.15m下の地面に転落し、その上に配管が落下してきて下敷きになり死亡した。	30302	4	10～ 29
2008	3	11 ～ 12	鉄製の箱（98cm×114cm、高さ84cm）に入っていたダイカストの端材であるマグネシウム切粉が爆発して近くで作業を行っていた作業員2名が被災した。なお、現場にはアーク溶接の溶接機が準備されていた。	11502	14	300 ～ 499
2008	3	11 ～ 12	鉄製の箱（98cm×114cm、高さ84cm）に入っていたダイカストの端材であるマグネシウム切粉が爆発して近くで作業を行っていた作業員2名が被災した。なお、現場にはアーク溶接の溶接機が準備されていた。	11502	14	300 ～ 499

2008	8	22 ～ 23	スパイラルシーム鋼管を転がして仮置き場所に移動させようとして歯止めを外したところ、鋼管（径0.9m、長さ28.04m）が被災者の方に転がり、鋼管と別の鋼管との間にはさまれ、その直下にあった深さ約1.7mのピットに墜落した。	11209	7	1～9
2008	5	14 ～ 15	4tトラックで金属のスクラップを回収して納品先の構内で金属スクラップの荷卸を開始した際、荷台の上のスクラップに直接乗って締め付け金具を外したところ、金属のスクラップが崩れて被災者がバランスを崩して荷台より落下した。その直後に荷台から束ねられたスクラップ（770kg）が被災者に落下して死亡した。	11709	5	1～9
2008	3	16 ～ 17	被災者は5.1tクレーンでH鋼（長さ10m、重さ1t）を移動させていたところ、積み上げてあったH鋼が崩れて被災者に落下した。災害発生当時、被災者は1人でクレーンおよび玉掛け作業を行っていた。	11209	5	10～ 29
2008	10	16 ～ 17	工場にタンクを設置するために工場の床のコンクリートを手持式ブレーカーで破壊して、コンクリートと一緒に打設してあった鉄骨を切断及び溶断した。その鉄骨をドラグ・ショベルで引き抜く作業中に鉄骨の一部が切断等されていなかったため鉄骨がひっかかり、その反動で鉄骨の一部がはね飛び被災者に当たった。	30201	4	1～9
2007	6	15 ～ 16	ガードレールを積載形移動式クレーンにより荷台に積み込む作業中、荷台に載せたガードレールの玉外しをしたところ、ガードレールが荷崩れをおこし、ガードレールと一緒に荷台より墜落し、下敷きとなった。	80109	5	1～9
2007	5	11 ～ 12	工場内で、建築部材である鋼製の梁（縦約2m、横約10m、重さ約700～800kg）の組立て溶接作業中、作業台の上に縦置きしていた当該梁をクレーンでつり上げる直前に、当該梁が倒れ、逃げ遅れた被災者に当たった。	11209	5	50～ 99
		9	立坑（直径1.9m、深さ3.3m）施工において、移動式クレーン仕様付ドラグ・ショベル（つり上げ荷重0.9t）を使用して、地上から立坑内にライナープレート（約20kg）を搬入していたとこ			10～

2007	9	～ 10	ろ、つり上げたライナープレートが立坑脇に仮置していた別のライナープレートに接触し、その束が立坑の中に落下して、立坑内でその荷受をしていた被災者に激突した。	30110	4	29
2007	6	～ 12	トンネル覆工用のセントルの解体作業中、解体用のチェーンブロックをつっていたチェーン（直径6 mm）が切れ、つっていたH鋼（長さ12.5 m）が傾き、被災者に激突した。	30102	6	10～ 29
2007	10	～ 14 15	瓶の洗浄機械プラントの解体撤去工事中の作業で、洗浄装置外枠鉄板を溶断中の被災者に、ガス溶断で切断された鉄板が倒れてきて、被災者が下敷きになった。あらかじめチェーンブロックでつり上げられた鉄板を切断する作業をしていたが、つり上げていた部分がスプロケットと呼ばれる軸であったため、鉄板に付いていた軸受けから切断の衝撃で、スプロケットが抜けてしまった。	30309	5	10～ 29
2007	7	～ 17 18	被災者は鋼材（714 kg）の開先作業を行っていた。鋼材の裏面の手入れをするために、鋼材の穴につり具のフックを引っ掛けてクレーンでつり上げ、反転させる作業の際に、フックが穴から外れ、支えを失った鋼材が被災者に倒れ掛かって激突した。	11209	6	10～ 29
2007	1	～ 9 10	仮置きしていた制御盤の四方に立て掛けていた鉄板のうち、制御盤前面の鉄板を取り除き、制御盤前面で被災者が制御盤内部を確認していたところ、制御盤が倒れ下敷きとなった。鉄板は切断後の残材であり、全部で110枚、1枚あたり重量20 kg～30 kg、寸法は多種（最大2.4 m×0.64 m）であった。	11402	5	100 ～ 299
2007	10	～ 18 19	被災者がステンレス製のスクリーンを切断していたところ、スクリーンを円形に保持するために張力をかけていたワイヤロープの先端が突然スクリーンからはずれ、はずれたワイヤロープがはねて被災者を直撃した。なお、ワイヤロープの先端はシャックルを付け、スクリーンを油圧ではさみ込んでいただけであった。	11209	6	50～ 99
			製鋼工場内（連続鋳造工程）において、被災者は不良品として払い出			

2007	8	13 ～ 14	された鑄片（径35cm、長さ6m、重さ約4t）を、天井クレーン（つり上げ荷重20t）を使ってワイヤロープでつり上げたところ、鑄片がバランスを崩して被災者の方に倒れ、被災者はチェーンカバーと鑄片にはさまれた。なお、災害発生時、当該鑄片の温度は約600～700℃であった。	11001	7	1000 ～ 9999
2007	3	18 ～ 19	ロールの局部焼き入れするための治具（円筒形の籠ステンレス鋼、長さ1.3m、直径45cm重量40kg）にロール2本（材質SS材、1本190kg、長さ2.3m、直径12cm）を入れて、設置していたところ、ロールが入っている治具が倒壊し、被災者が下敷きとなった。	11209	5	50～ 99
2007	3	12 ～ 13	NCフロアボーリング盤により工作機械フレーム（W1000×D1000×H2000約2t）の穴あけ作業を行うため、フレームをNCフロアボーリング盤にセットし、油圧ジャッキを用いてフレームを乗せている架台の調整を行っていたところ、当該フレームが被災者に向かって倒れ、その下敷きとなった。	11209	5	100 ～ 299
2007	7	16 ～ 17	学校などで使用する耐震補強材を作成中、次の補強材を作成するための材料であるH鋼（250×250×1700mm：約120kg）をクレーンにて移動させ4本ずつ積み上げていたところ、バランスを崩したH鋼の荷（8本）が被災者側に倒れた。	11209	5	1～9
2007	1	9 ～ 10	ターニングローラー（円柱状の製品を回転させる装置）の上部に置かれたアルミ製円筒（内径3000mm、厚さ10mm（一部18mm）、長さ1880mm、重量546kg）の内部において、溶接線の浸透探傷試験（カラーチェック）を行っていたところ、当該円筒がバランスを崩して転倒し、作業者に当たった。	11301	2	100 ～ 299
2007	8	11 ～	自動倉庫において荷を取り出すためスタッカークレーンから降ろされたパレットが荷取り出し口手前のコンベヤーの一部に引っかかり停止した。停止したパレットを直そうとパレットに近づいたところ、リフターが上昇し、パレットが被災者側に傾いた。これによりパレットの	10805	4	300 ～

		12	上に載っていた荷（鉄製コイル、重量960kg）が被災者側に落下し、被災者は下敷となった。			
2007	2	17 ～ 18	被災者は、資材置場内に置かれていた「I型鋼」の上で作業等を行っていたところ、転落した「I型鋼」と隣に置かれていた「I型鋼」の間にはさまれた。	11209	5	100 ～ 299
2007	3	7 ～ 8	船に載せる廃鋼材（50キロレール）をトレーラーからフォークリフトを使用し降ろす際、廃鋼材がワイヤロープで束ねられていて、フォークリフトで降ろすことができなかったため、廃鋼材を一旦少し持ち上げ隙間を作り、その隙間に入りワイヤロープをワイヤーカッターで切断したところ、廃鋼材が1本落下し、はさまれた。	50202	4	10～ 29
2007	6	9 ～ 10	土留めのためのH鋼埋め込み、引抜きを請け負い、被災者がトレーラーの荷台上で積載してある10本1束のH鋼を5本ずつに分けるため、クレーンオペレーターと手合図を交わしながら、ワイヤロープでつり上げたところ、H鋼が荷崩れし、H鋼1本（重量450kg）とともに地面に落下し、H鋼の下敷きとなった。	30201	5	10～ 29
2007	1	12 ～ 13	被災者は、トレーラーから梁（H型、長さ5.1m、重さ約400kg）9本を降ろそうとしていたところ、左側梁1本が落下しトレーラーの傍らにいた被災者がその下敷きとなった。	40301	4	30～ 49
2007	8	10 ～ 11	木造住宅の解体工事現場において、解体により生じた廃材を手作業により集積していたところ、釘を踏み創傷した。翌日から痛みと腫れがひどくなり入院治療を行っていたが死亡した。	30209	9	1～9
2007	1	13 ～ 14	倉庫において、床上クレーンを用いて鋼材の束を整理する作業中、積上げられた鋼材の束が崩れて下敷きとなった。	11209	5	10～ 29
2007	11	10 ～	放流管補強工事現場において、架台の上に立てて仮置きしていた12枚の鉄製の仕切り板（高さ1.8m、幅4.5m、厚さ0.3m、重さ2t）を放水路の立坑に据付ける作業中、仮置きしていた仕切り板	30111	7	50～

		11	上で玉掛け用具を掛ける位置を調整した後、移動式クレーンでつり上げるために他の仕切り板の上を移動していたところ、被災者が倒れた仕切り板と仕切り板の間に墜落するとともに身体をはさまれた。			99
2007	9	14 ～ 15	工場内において、建設用鉄骨材（長さ9m、高さ0.9m、幅0.4m、重さ約4t）を天井クレーン（つり上げ荷重5t）で製品仕上げ場まで運搬し、玉掛け用クランプを外したところ、当該鉄骨材が倒れ、被災者が隣にあった鉄骨材との間にはさまれた。	11209	6	10～ 29
2007	3	9 ～ 10	馬鈴薯選別機械の据付工事において、機器の撤去・据付作業が終了し、チェンブロックの走行レール用に架設したH鋼（長さ12m、重量約240kg）を取り外すため、天井の梁（約4m）に固定していた2個のクランプを外していた際、H鋼が振れ、脚立上の作業者が墜落、その上にH鋼が落下して作業者を直撃した。	30302	4	100 ～ 299
2007	1	11 ～ 12	足場用資材を積んだトラックを移動させる際、被災者2名は、荷台の上で資材が動かぬように手で押さえていたところ、トラックが上り勾配でスリップし、運転手がブレーキを踏んだ時に、その反動で押さえていた資材が崩れ、被災者に当たり死亡した。	30309	5	1～9
2006	11	11 ～ 12	地山の落石防護のための金網設置工事において、被災者は道路面から直高約100m地点の金網上部のアンカー穿孔予定箇所の付近に金網留資材（アンカー（直径21mm、長さ1.55m、重さ3.4キロ）、補強パイプ、座金）12セットを2m間隔で仮置きした後、金網下部に移動して、グラウト注入作業を行っていたところ、仮置きした資材のうちアンカー1本が落下して、約8m下にいた被災者にあたった。	30108	4	1～9
2006	12	16 ～ 17	工場内において、労働者4名が、製品の電極板出荷のための梱包作業中、電極板12枚を立て掛け、13枚目の陽電極板（縦1.4m、横2.5m、重さ125kg）を立て掛けようとしたところ、突然、電極板が倒れ、被災者がその下敷きとなった。	11301	5	10～ 29
		0				

2006	11	～ 1	トレーラーの荷台で型枠用鉄板の積み込み作業中に荷崩れし地面に墜落し、鉄板の下敷きとなった。	40301	5	10～ 29
2006	11	～ 1	単管足場の架設作業中、長さ10mの建地を組み立てる際、建物屋上から2m1本と4m1本を摩擦接合式の単管ジョイントで接合したものを下ろし、下から建てた4mの単管と接合させるときに、ジョイント部分が外れ、4mの単管（重量約11kg）が落下し、地上部分で単管を支えていた被災者を直撃した。	30209	4	1～9
2006	11	～ 11	溶融亜鉛鍍金槽（幅1.3m、長さ5.6m、深さ1.7m）において、クレーンでつり上げた鉄製の角パイプへの鍍金を行っていたが、槽内に沈まなかったため被災者が鍍金槽前に移動し、鉄製の棒を用いて角パイプを鍍金槽内に沈めようと押さえていたところ455℃の溶融亜鉛が飛散・流出し被災した。角パイプは一部が二重構造となっており、内部に密閉された中空部を有しており、災害発生後の角パイプは破裂した状態であった。	11204	15	50～ 99
2006	12	～ 15 16	被災者外1名で、工場内で建築用の鉄骨の溶接作業を行っていた。溶接していた鉄骨（H型鋼、重量約1.5トン）は2階建て建屋の角部分の柱で、1階及び天井部分の梁が二方向についていた。この鉄骨を横向きにして2本の架台に乗せ、被災者らが溶接後のバリ取り作業を行っていたところ、鉄骨が倒れ、床にうつぶせに倒れた被災者が、鉄骨の梁の先端部と床に挟まれた。	11209	5	10～ 29
2006	11	～ 16 17	被災者は工場で、帯状の鉄板をロール状に巻いた金属材料（直径121センチ重量710キログラム）を天井クレーンにて移動しようとしていた。立てかけられた材料の2個に玉掛けをしようと材料の間に入ったところ、荷が倒れ金属材料の間に挟まれた。	10502	7	1～9
2006	10	～	製造ラインの中のバケットエレベーター（原料を低所から高所へ搬送させるための設備）の腐食した部分を取替える作業において、移動式クレーンを使用して取替える部分を床に荷降ろしし、当該クレーンで	11209	5	1～9

		14	保持した状態で被災者が荷に上がって作業を行っていたが、クレーンのフックを外したところ、荷が倒れ、荷と建物とに挟まれた。			
2006	10	10 ～ 11	P C 杭製造工程に於いて、末端金具に緊張材であるφ 9 mmの鉄筋 2 6 本をとおす作業を行っていた際、1 本だけ飛び出た鉄筋が刺さった。	10901	3	10～ 29
2006	8	19 ～ 20	翌日出荷予定の鉄骨梁 1 本が不明となったため、他現場へ出荷する梁の中から 2. 8 トン天井クレーンを使用して 1 本ずつ選り分けて探していたところ、梁 1 本（H 鋼、H - 5 8 8 × 3 0 0 × 1 2 × 2 0、長さ 4. 6 m、重さ約 7 0 0 k g）が落下し、はさまれた。	80109	4	10～ 29
2006	7	10 ～ 11	建設工事で使用する H 形鋼を、工場内の深さ約 1. 5 m のピット上で溶接しようとしていたところ、H 形鋼と一緒にピットに墜落した。溶接しようとしていた H 形鋼は長さ約 1 m のもので、幅 2 5 c m の鋼材の上に置かれていた。	30201	4	30～ 49
2006	7	10 ～ 11	採石場に置いていた鉄骨製架台を 1 0 トンダンプトラックに載せて工場資材置場に運搬後、ダンプ荷台をダンプアップして鉄骨製架台をずり降ろそうとしていたところ、同架台が一旦地面に落ちたが横に倒れ、トラックの脇で合図をしていた被災者を直撃した。	20201	6	10～ 29
2006	7	14 ～ 15	コイル状鋼材（直径 1. 7 m、厚さ 0. 2 m、重量 2 t / 個） 2 個を停泊中の船内へ積み込むため、2 名の作業員で玉掛作業を行っていたとき、コイル状鋼材の中心の穴に通したチェーンリングを被災者が玉掛のため引いたところ、当該鋼材が被災者側に転倒した。	50202	5	10～ 29
2006	6	10 ～ 11	アルミ溶融回転炉より湯出し終了後、被災者は当該炉内に残留した焼灰（アルミと不純物との混合物）を専用釜に移し替えた後、焼灰の温度が高過ぎたために、不純灰をかけて焼灰の温度を冷まそうと、鉄箱に入れた不純灰をフォークリフトを使用して振りかけたところ、高温の熱風が発生し、火傷を負った。	11109	11	30～ 49
		16	船体ブロック組立作業現場において、労働者 3 名がスタンフレームのラダーホン（舵の一部）の組立て作業を行っていたところ、組立てて			

2006	5	17	いた鉄板（長さ3m×幅75cm×厚4cm、約700kg）が落下し、直下で溶断作業を行っていた被災者が、鉄板と共に高さ約3.2mの作業床から地上に墜落した。	11501	4	10～29
2006	6	17	被災者は、工場内の作業場で一人で、推進装置の部品（重量約750キログラム、長さ198センチ、幅58センチ、厚さ14センチ）の塗装作業に従事していたが、同作業場で同部品の下敷きになっているのが発見された。被災者の発見時、同部品は、吊り上げ荷重2.8トンの天井クレーンにフックで玉掛けした状態であった。	11301	3	1～9
2006	4	10～11	工場内において、コンテナ船のコーミングトップの組付作業中、組付中のピンブロック（約920kg）が作業中の労働者に落下した。	11501	4	10～29
2006	3	16～17	鉄骨材を荷台に積み、貨物自動車（最大積載荷重3t）にて構内加工工場から同構内資材置場に運搬し、被災者が荷解き作業を行っていた時、突然鉄骨材が崩れだし被災した。	11209	5	10～29
2006	2	15～16	事業所内の解体工事現場において、トラックに積載した廃材を重機で整理していたところ、トラックの荷台からH鋼（長さ約8m、重さ約700kg）が落下し、トラックのそばで清掃作業をしていた被災者に当たった。	30201	4	30～49
2006	2	14～15	密着して立て掛けてあったスチールコイル（直径178cm、幅5cm、重さ890kg）をクレーンで運ぶためコイル間に隙間をつくる作業をしていたところ、コイルが倒れた。倒れたコイルの内側がばらけたため、元に戻そうとコイル間に体を入れたところ、他のコイル4巻が倒れコイルの間に挟まれた。	11502	5	100～299
2006	2	14～15	鉄筋（柱筋、12メートル、198キログラム）を25トンのトラッククレーンで建て込む作業をおこなっていたところ、鉄筋を吊っていたベルトスリングが切断し、鉄筋が落下した。この鉄筋が落下後跳ね、被災者に当たった。	30106	4	1～9

2006	1	10 ～ 11	河川護岸工事において、作業場に敷鉄板を敷き詰めるため、移動式クレーンで敷鉄板の地切りを行っていたところ、クレーンのジブの先端付近に置き忘れた鋼製の治具（約5kg）が地上高約27mの位置から落下し、玉掛作業を行っていた被災者を直撃した。この自社製の治具は「ワイヤ止め」と呼ばれクレーンをトラックにて搬送するとき、クレーンのワイヤが傷まないようにするためのものである。	30107	4	1～9
2005	4	9 ～ 10	工場内において、不要になった鉄板を立て掛けておく整理枠と鉄板の撤去作業中、被災者が立て掛けてあった鉄板と鉄板の間に立ち入ったところ、鉄板3枚（1枚の重さ200kg）が突如倒れ、これに挟まれた。	11209	5	30～ 49
2005	3	16 ～ 17	回転炉にエンジン等のスクラップを入れてアルミ抽出作業を終了後、炉内に残る鉄や灰をバケツに入れフォークリフトで工場内の鉄等の置場に運び、バケツを回転させて中の鉄や灰を下ろしたところ、被災者が熱風を浴びて火まみれになった。	11009	11	1～9
2005	8	11 ～ 12	資材置場において、門型手動チェーンブロック式重量物つり上げ装置の部材台座に置く作業をしていたところ、台座上の支柱（重さ420kg）が落下し、被災者に激突した。	30302	4	1～9
2005	5	19 ～ 20	工場土間上で作業中、架台から製作途中の鉄製の柱（重さ4.5トン）が落下し、下敷きとなった。	11209	4	1～9
2005	8	9 ～ 10	キュポラの耐火物の解体撤去工事中、溶断したI型鋼片が炉内に落下し、炉内で作業中の被災者に当たった。	30209	4	10～ 29
2005	2	14 ～ 15	足場で組立作業をしていた作業者が火打ち材として使用する単管を枠組足場の枠の上に仮置きしていたところ、強風により単管が落下、下で作業中の被災者に激突した。	30201	4	1～9
2005	4	10 ～	多機能ダストホッパーの組付け作業中、円筒（直径3m、長さ2m、重さ1.8トン）の接合面に接着剤を塗る作業において、横倒しになっている円筒の内側に入り込んだところ、円筒が起き上がり、その円筒の下	30302	5	1～9

		11	敷きとなった。			
2005	6	16 ～ 17	トレーラートラックの荷台に積まれた山留材を、橋形クレーンでつり上げ、工場敷地内の所定の鋼材置場に移動させる作業中、荷が被災者に激突した。	11209	6	10～ 29
2005	10	14 ～ 15	事業場の外壁に立て掛けておいたアルミサッシ（1枚の重さ10kg）のうち壁側のアルミサッシを抜き取る作業を行っていたが、被災者が10枚のアルミサッシを手で垂直に支えている間、他の作業者がアルミサッシを抜き取ろうとしていたところ、被災者がアルミサッシを支えきれずに後ろ向きに転倒してアルミサッシの下敷きとなった。	10503	5	1～9
2005	2	11 ～ 12	フォークリフトのタイヤのパンクを修理するため、2枚のホイールをボルトとナットで仮留めし、チューブに空気を充填したところ、ナットが外れ、飛来したホイールが被災者に激突した。	80204	4	1～9
2005	12	9 ～ 10	天井クレーンを使用して鋼板コイルの移動作業中、下段に並べていたコイルが滑動したため、上段に積んでいたコイル（重さ13トン）が斜め方向に落下し、玉掛の補助者をしていた被災者がコイルと背後に並べていたコイルとの間に挟まれた。	170101	4	30～ 49
2005	11	10 ～ 11	土止め作業において連結鋼矢板を車両系建設機械を使用して玉掛作業で運搬中、足元が滑り転倒した。さらに、そのはずみで立てかけ状態であった当該鋼矢板(重さ260kg) が倒れ、被災者に激突した。	30199	5	1～9
2005	3	11 ～ 12	鋼製のリング（重さ400kg）を溶接するため、天井クレーンを使用して反転させようと操作中、フックからワイヤロープが外れリングの下敷きとなった。	11301	4	1～9
2005	2	13 ～ 14	天井クレーンによりボックス柱（重さ8トン）を移動中、台車とともにボックス柱が倒れて被災者に激突した。	11209	6	100 ～ 299
2005	5	14	鋼矢板を橋型クレーンを使用して搬出中、鋼矢板に咬ませていた角材が折れ、この拍子に上に積んであった鋼矢板8枚（重さ10トン）が滑	11209	7	1～9

		15	り落ちて被災者を直撃した。			
2005	6	12 ～ 13	ブロックのフロア部の部品をリモコン操作の天井クレーンで操作し移動していたところ、先に配材した部品（重さ1.8トン）が被災者に倒れかかった。	11501	5	300 ～
2005	11	10 ～ 11	鉄板とH鋼材を溶接していたところ、鉄板（重さ800kg）が作業していた被災者側に倒れた。	30199	5	10～ 29
2005	4	15 ～ 16	資材置き場において、積み上げてある資材に上り、下りようとしたところ、不安定であった布板に手をかけてしまい、布板の束とともに転落し、下敷きとなった。	30209	1	1～9
2005	1	9 ～ 10	建築用鉄骨鋼材の溶接部の欠陥を補修をするため、鋼材上に乗って準備作業中、鋼材の一部に左足が引っ掛かり、転倒した。	11209	2	10～ 29
2005	8	11 ～ 12	H鋼のガス溶断作業中、H鋼の間に挟まれた。	80109	5	10～ 29
2005	4	16 ～ 17	資材センター内において、角パイプを選抜していた際に、当該パイプが崩壊し、崩壊したパイプ40本（重さ300kg）の下敷きとなった。	30199	5	10～ 29
2004	3	8 ～ 9	足場材（鋼製布板等）を仮置きしている敷地内で、束ねていた鋼製布板（重量約750kg）が約2.4mの高さから落下し、被災者に激突した。	170209	4	10～ 29
2004	5	7 ～ 8	かわ鑄付置場（屋外）において、構内下請け事業場の被災者が、錬銅建屋内の大割場から鉍滓のかたまりをトラクター・ショベルで運搬し、床面に下ろした際、水蒸気爆発が生じた。	11101	14	30～ 49
		8	新造船船体一部の2重底タンク内のバラストパイプをエアーにより圧力テスト中、パイプの閉止用ドレッサーカップリング（伸縮継手にパイ			300

2004	7	～	プを取り付けた物で直径450mm、長さ1000mm、重さ約160kg) が吹き飛び、2m離れた位置で図面のチェックをしていた被災者に当たった。	11501	4	～	499
2004	10	～	11 仮設構台設置工事現場でのH型鋼の建て込み作業において、H型鋼と土 12 囊の間に挟まれた水道用ホースを取り除くため、H型鋼を両手で掴んで 手前に引いたところ、H型鋼が回転して足元に落下した。医療機関で治療後現場に戻り、帰宅のため乗用車に乗り込もうとしていたところ、突然倒れ、その後、救急車で搬送されたが死亡した。	170209	4	1～9	
2004	10	～	16 内面仕上げのために作業場内に仮置きした鑄鉄管の位置を微調整しよう 17 うと、他の作業者がトラバースで約30cm移動させたところ、被災者が 当該鑄鉄管と隣の作業台に置いてあった鑄鉄管の間に挟まれた。	50101	7	50～	99
2004	3	～	10 資材置き場に橋梁工事に使用する支保工（ベント）が積み上げてあり、 11 その上にベントの間にかませる番木がおいてあった。その番木を 片付けるため高さ約4mのベント上に上がり番木をトラックの荷台に投げ 入れ作業をしていたときに、トラック荷台上に墜落し、さらに地面に墜 落した。	30105	1	10～	29
2004	2	～	14 ポールトレーラーが工場から出庫しようとした際、ポールトレーラー 15 の荷が工場内に積んでいたH鋼に接触し、H鋼3本が落下し、近くに いた被災者に激突した。	11209	4	10～	29
2004	3	～	11 立抗掘削時に使用する鋼管ケーシングの製作過程において、鋼管ケー 12 シングを回転させるターニングロールにケーシングを載せ、ケーシ ングジョイント用の穴あけのため寸法取り作業中、当該ケーシングが倒 れ、作業中の製缶工がケーシングの下敷きになり死亡した。	11209	5	1～9	
2004	6	～	9 建築資材（H鋼、300×300×6000mm、0.6 t を2本横に繋げたもの） 10 をトレーラーからクレーンで荷下ししていたが、1つ目を下ろす際、H 鋼間に敷く番木がなかったため、階段状の3段目に仮置きした状態で番 木を探しに行った。その後、被災者が番木を見つけて戻って来たところ、 突然、仮置きしていたH鋼が崩れ落ち、被災者を直撃した。	50101	4	1～9	

2004	4	10 ～ 11	ビニールハウスの材料を荷下ろしするため、トラックの荷台上で玉掛け作業中、荷崩れを起こした材料とともに転落した。	40301	5	10～ 29
2004	3	10 ～ 11	交通信号機改良工事において、運搬中に荷崩れした信号柱（直径20cm、長さ9m、質量220kg）を荷台上で直そうとした際、トラックの前部支持台からこの柱が外れ、落下した弾みで柱の元口が跳ね上がり、被災者が元口部分を持っていたため、柱と一緒に荷台から転落し、柱の下敷きになった。	30301	4	100 ～ 299
2004	7	6 ～ 7	岸壁に接岸していた貨物船の船内でコイル（重さ17 t）の積込み作業中、1段目に積んだコイルが横方向にすべることを防止するためのストッパーの位置を、コイルとコイルの間に潜り込んで修正していたところ、コイルの重みでストッパーがずれ、下のコイルが横滑りし、上のコイルが被災者に落下した。	50202	4	10～ 29
2004	4	13 ～ 14	倉庫塗装工事において、枠組足場の組立作業途中、上方で作業する労働者が足場資材を落下させ、下方で作業していた被災者に激突した。	30209	4	10～ 29
2004	9	13 ～ 14	クレーンを使用して、長さ120cmのパイプサポート42本を、躯体（く）体19階付近の鋼製枠組み足場に設けた作業構台（地上55.1m）から、躯体屋上へ荷上げしようとして作業構台から約9mつり上げたところ、6本のパイプサポートが地上に落下し、地上で作業を行っていた被災者に当たった。	30201	4	10～ 29
2004	9	9 ～ 10	社宅において、会社の部下に殺害された。	40301	90	1～9
2004	10	14 ～ 15	工場内で鉄骨階段の製造中、塗装用架台上に並べ置いた鉄骨階段の部品の間で塗装作業を行っていたところ、同架台上で将棋倒し状に倒れた同部分品（重さ約0.4 t）に挟まれた。	11209	5	10～ 29

2004	2	9 ～ 10	地上において、鉄骨梁（重さ約1 t）につり足場を取り付けるため、高さ約1mのうま足場2脚に当該梁を載せて作業を行っていたところ、当該梁が、作業側側に倒れて被災者に激突した。	30201	6	10～ 29
2004	2	8 ～ 9	鉄骨柱部材（重量2.5t）の塗装作業に先立ち、マスキングテープを貼るために、当該柱部材に取り付けられているプレートに足を掛けたところ、その荷重で柱部材が被災者側に倒れ、隣の同種部材との間に挟まれた。	30209	7	1～9
2003	12	10 ～ 11	鋼板メーカーに返品するコイルの束（1巻き約800kg、5束）を加工工場から別の場所に移動させるため、天井クレーンの補巻（定格荷重5t、主巻は10t）で電動式の搬送台に移し、搬送台を移動し始めたときに載せていたコイルの束が崩れ、逃げ切れずに崩れたコイルの下敷きになった。	11509	5	300 ～ 499
2003	10	11 ～ 12	船体ブロックの組立作業中に、船体ブロックに斜めに仮溶接されていた鉄板（重さ約2.5t）が落下し下敷きになった。	11501	4	50～ 99
2003	10	17 ～ 18	積んであった結束鋼管と結束鋼管の隙間に半身を入れて鋼管の製造メーカーを確認しているときに、片側の結束鋼管（1本の鋼管寸法：口径216.3mm×肉厚5.8mm×長さ12m、結束本数7本、総質量2.527t）が荷崩れして上半身をはさまれた。	80109	6	10～ 29
2003	9	11 ～ 12	H形鋼のサビ落とし作業中に、H形鋼を載せるローラー付き構台から60cm程離れた場所に2段で積まれていたH形鋼の2段目の端部分のH形鋼（縦60cm×横20cm×長さ9m、1本当たり質量約800kg）3本が崩れ落ち、うち1本が背中に当たってH形鋼と構台の間にはさまれた。	11209	5	10～ 29
2003	7	16 ～ 17	製鋼工場造塊ヤードの釜台車の解体作業で、ガス溶断をしていたときに仮置きしていた釜台車の防護壁が倒れて下敷きになった。	30309	5	30～ 49
		9	トンネル新設工事においてボーリング機械用の作業構台を設置する作業で、既設作業構台の支柱（H鋼）と根がらみ（H鋼）を固定していた			

2003	7	～	固定金具2個のうち1個が外れたので、改めて根がらみを固定し直すため固定金具を外したところ、根がらみがはね上がって既設作業構台の筋交いとの間に右腕をはさまれた。	30102	7	10～ 29
2003	6	18 ～ 19	建築用鉄骨の角鋼管（70cm角）の選別作業中に、積み重ねた4段目の鉄骨の「はい」（高さ約3m）の上からコンクリート床に墜落した。	11209	1	1～9
2003	4	14 ～ 15	工場内において、船舶上部工の部材の組立てのため底板にアーク溶接で鉄製の壁部材（2,270mm×2,430mm×10mm、質量約400kg）の仮付けをしていたときに、壁部材が倒れて台座鋼との間に頭部をはさまれた。	11209	5	50～ 99
2003	4	16 ～ 17	直径1400mm、幅600mm、厚さ25mm、重さ550kgの鋼管を、ローラーの上に載せて開先作業を行っていたところ、鋼管が倒れてきて下敷きとなった。	11301	5	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	配送されてきた水道管（径1.5m、長さ0.8m、質量1.77t）を、傾斜（約8度）している作業ヤードに止めたトラック上で、荷締めワイヤを取り外してベルトスリングを通すため、管に被せられていたブルーシートに穴を開けようと荷の下手（傾斜の）側で作業していたときに、荷のバランスが崩れて落下し下敷きになった。	30110	5	50～ 99
2003	2	15 ～ 16	出張作業の工場内において、並べて仮置きしてある鉄製型枠材（縦120cm、横378cm、厚さ33cm、質量約2t）を移動させるため、クランプで玉掛けして2.8t天井クレーンでつり上げようとしたが、つり上げることが出来ないため原因を探っていたときに、玉掛けしていない別の型枠材が倒れて下敷きになった。	11209	5	100 ～ 299
2003	2	11 ～ 12	10tのダンプ・トラックで畑へ堆肥の運搬作業をしていたところ、途中でトラックが脱輪したので同僚とともにトラクター・ショベル(機体質量が3t)でトラックのフックにワイヤロープをかけ牽引しているときに、フックを支えていたボルトが壊れてフックが外れ、そのフックが	70101	4	1～9

			トラクター・ショベルの運転者を直撃した。			
2003	1	17 ～ 18	溶解炉に溶解材料（ダライ粉）を入れて手元操作盤で「主回路」の電源を入れたところ、「ドン」という爆音とともに溶解中の材料が飛び散り、それを浴びて上半身に火傷を負った。	11002	11	30～ 49
2002	12	15 ～ 16	4階建鉄筋コンクリート造新築工事において、2階のコンクリート打設床面を均す作業をしながら、2階床の開口部の枠組み足場最上段（2段足場）に積んであった歩み板に乗ったときに5.4m下の地上に墜落した。	30201	1	1～9
2002	12	9 ～ 10	横5.5m、高さ2.3m、幅30cm、重さ1tの建築用梁材を馬（台）に乗せて溶接作業中、馬と梁を固定していたクランプを外して梁の脇にいたときに、梁が倒れてきて別の鉄製台との間に頭部を挟まれた。	11209	5	10～ 29
2002	11	8 ～ 9	作業場に搬入した鉄骨材をトラックに積み込む作業で、鋼材を連結していたボルトを外したときに、鋼材のバランスが崩れて70cm下の地面に落下し、地上でしゃがんだ姿勢で別の鋼材の溶断作業をしていた者の背中に激突した。	11209	4	1～9
2002	11	14 ～ 15	道路拡幅工事において、水路用溝（深さ1.8m、幅1.2m、延長26m）を掘削して土止め用の鉄板（長さ6.1m、高さ1.5m、厚さ25mm、質量1.8t）をドラグショベルで降して木片（長さ1.3m及び1m）2つを組み合わせもの一点で仮支えし、もう1枚をつり降ろした後に溝内に入り切梁の長さを測定していたときに、木片の支えが外れて倒れてきた鉄板に頭部を挟まれた。	30106	5	1～9
2002	10	11 ～ 12	工場内の非常階段の組立で、鉄骨柱に踊り場部分（約250kg）をアーク溶接で仮組みし、踊り場部分を吊っていたクレーンのシャックルをはずして次の作業に取り掛かろうしていたときに、踊り場部分がバランスを失って倒れたため鉄骨柱と踊り場部分との間に挟まれた。	11209	7	1～9
2002	9	9 ～	テレビ塔の塗装工事において、鉄骨上に仮置きしていたパイプを鳶工が取上げたとき、そのうちの1本が転がり落ちて高さ87mの位置からネットの間隙を通過して地上に落下し、テレビ塔西側の自動販売機付近	170209	4	30～ 49

		10	にいた労働者の頭部に激突した。			
2002	10	10 ～ 11	倉庫解体作業で、骨組みの丸太梁の両側をチェーンソーで切断し、金属のパイプ（長さ2.3m）でつついて落とそうとしたときに丸太梁が金属のパイプの先端に落下したため、その反動で金属のパイプの先端が右首に激突し、倒れた時に地面に頭を強打した。	30209	3	1～9
2002	8	11 ～ 12	タンカー船体ブロックの組立で、三角形の鉄製補強板を取りつけているときに、補強板（重さ約1.6t）が倒れ下敷きになった。	11501	5	50～ 99
2002	7	10 ～ 11	スチール製の椅子を加工する作業で、製品の一部に汚れを認めたためバフ盤（布バフ）で表面を磨いていたところ、椅子の脚（直径9mm）が左胸に突き刺さった。	11204	6	10～ 29
2002	6	15 ～ 16	橋梁用鋼製桁（高さ2.1m、重さ5 t）をハッカーで玉掛けして25 t クレーンで吊上げたところ、作業変更となったので一旦桁を元の位置に降ろしてハッカーを外しクレーンを巻き上げたときに、ハッカーの爪が桁に引っ掛かったためその下敷きになった。	11209	5	1～9
2002	5	8 ～ 9	掘削溝（巾1.3m、深さ0.7m）に土止支保工の鋼板をドラグショベルで吊り込んで溝壁に立てかけ、ドラグショベルからワイヤロープを外した2、3分後に鋼板が倒れたため、反対側に既に立込んであった鋼板との間に胴部が挟まれた。	30201	7	10～ 29
2002	6	10 ～ 11	直径260cm、質量7.76tの鑄鉄管に穴をあけるため運んでいるときに、所定の位置に止まらず行き過ぎたため、進行方向で作業していた者が建物の柱と鑄鉄管との間に頭を挟まれた。	11002	7	300 ～
2002	5	9 ～ 10	パワーショベルの解体作業でショベルのアームと車体をガスで切断し、その後アームが倒れ落ちる場所を整理していたときに、アームと車体が完全に切断されていたためアームが倒れその下敷きになった。	80109	5	1～9
		10	解体した枠組み足場を部材ごとトラック上のクレーン（つり上げ荷重2.93t）で積み込み、積み荷にワイヤロープをかけるため2名が地上で			

2002	3	～	ワイヤーロープが外れないように手で押さえ、1名が荷に上がりレバー	30209	4	1～9
		11	ブロックで締め付けたときに、ワイヤーロープが掛かっていなかった部材の束（筋かい、質量約444kg）が落下し地上の1名を直撃した。			
2002	4	～	工場新設工事現場に4 tトラックで鉄骨材3本（1本約1 t）を運搬し、荷台上で台付けワイヤーロープを解いた状態で待機していたときに、	40301	5	10～29
		9	鉄骨2本が崩れたため荷とともに地上に落下し下敷きになった。			
2002	4	～	発電設備であるガスタービンの鉄製防音カバー（天井部分と側壁2面が			
		11	ボルトにより結合されたもので、質量約1.1t）内側のシート張りと解体			
		～	作業中、倒壊防止のための補強が不十分であったためカバー倒壊し、	11209	5	1～9
		12	中で作業していた2名のうち1名がカバーの下敷きになり死亡し、1名が骨盤、脚を骨折した。			
2002	2	～	足場資材置場で小型移動式クレーンを用いて足場資材の荷下ろし作業			
		16	中、約4mの高さに積み上げられていた足場資材が荷崩れを起こして崩	170209	5	1～9
		17	壊し、足場資材の間に胸部を挟まれた。			
2002	2	～	工場内材料置場において、鉄製のラックに立て掛けられたコイル状の			
		14	金属材料（幅22mm、直径100cm、質量約108.5kg）が15個バンドで結			
		～	束されたもの（総質量1630kg）を近くのプレス機械のところへ運搬す	11203	5	10～29
		15	るためバンドを切断したところ、金属材料が倒れてラックと材料の間に首が挟まれた。			
2002	2	～	工場加工された鉄骨の梁材（長さ6.5m、重さ1.1t）を塗装するた			
		9	め、天井クレーン（つり上げ荷重2.8 t）でつり上げてトラックの荷台			
		～	に積み込んでいるときに、荷台に置いた梁材が倒れて荷台上で玉掛作	11209	1	1～9
		10	業をしていた者が地上に落下し、梁材の下敷きになった。			
2002	2	～	地上14mの橋台で型枠の組立て作業中、型枠に仮差し込みしていたセ			
		14	パレーター（径12mm、長さ1m、重さ0.88kg）16本のうち座金の取付			
		～	けが終わっていなかった1本が抜け落ちて、資材を取りに下を通行中の	30105	4	10～29
		15	者のヘルメットを突き抜け前頭部に突き刺さった。			
			スクラップヤードで、製紙用ロール（10 t）を電炉向けスクラップサ			

2002	2	21 ～ 22	イズ（1t以下）にガス溶断（酸素+LPG）作業中、切断中のロールに下半身を挟まれ、ガスのホースからでていた火炎で頭部に火傷を受けた。	11009	11	300 ～ 499
2001	10	13 ～ 14	鑄造工場で使用したダイカストマシンの金型を倉庫内の所定の置場に片付けるため、フォークリフトで運搬して吊り上げ荷重2.8tの床上操作式天井クレーンで金型を吊上げ3段の棚の最上段に載せていたときに、隣に置かれていた金型(質量約700kg)が反対側に落下し金型整理のため置場のチェックをしていた者に当たった。	11102	4	50～ 99
2001	12	9 ～ 10	吊上げ荷重4.8tのクレーンで、塗装済の鉄骨を吊上げて運搬していたときに、工場内に2段に重ねていた鉄骨が突然崩れ、崩れた鉄骨とその脇に置いてあった鉄骨との間に挟まれた。	11209	5	10～ 29
2001	10	17 ～ 18	トラス(鉄骨建築梁材)の溶接作業のため、吊り上げ荷重2.8tの天井クレーンでトラスを立たせ、玉掛け用具のクランプを外し、クレーン運転者がクランプを巻き上げていたときにトラスに引っ掛かったためトラスが倒れて胸部を直撃した。	11209	5	10～ 29
2001	11	8 ～ 9	工場の増改築工事において、空調配管の設置に不備があったので通路上で配管の付け替え作業を行っていたときに、配管(約10kg)が落下し、通路を通りかかった労働者の頭に激突した。	11301	4	30～ 49
2001	11	16 ～ 17	新造船の船尾に取付けていた支持鋼材(質量約300kg)を撤去するため鋼材に空けてある作業用の穴にシャックルを取付け、ジブクレーン(吊り上げ荷重41.7t)で吊上げたところ、鋼材の上端が船舶デッキの張出部に接触してシャックルの取付け穴が破断し、鋼材が落下した。	11501	4	10～ 29
2001	11	9 ～ 10	資材置場で、トラックの荷台から鉄くずをマグネット付きの重機で荷降ろし重機のブームを荷台上に戻そうと旋回したときに、ブームの先端が鉄くずの山に積み上げてあった廃棄済みのエアコンの室外機(重さ約100kg)にあたりが落下して荷台の外から鉄くずの仕分け作業をしていた者に激突した。	80109	4	1～9

2001	8	14 ～ 15	コンクリート製集水桝の鋼製型枠の準備作業で、質量約153Kgの鋼製型枠を開いたところ、支えきれず約120cm後方に置かれた鋼製型枠との間に挟まれた。	10901	7	30～ 49
2001	10	16 ～ 17	ホテル建設工事において、吊り足場の組立で高さ1m、幅1mの架台に置かれている鉄骨の吊り足場に乗って鉄骨上部に親綱を取付ていたときに、体の重みで突然鉄骨が倒れて架台から落ちた鉄骨(総質量643kg)の下敷きになった。	30201	4	10～ 29
2001	10	16 ～ 17	倉庫の解体工事で、解体した鉄骨をトラックで運びやすいように地上でガス溶断を行っていたときに、後に立てていた鉄骨が倒れてきて頭部が鉄骨と鉄骨との間にはさまれた。	30309	5	10～ 29
2001	8	7 ～ 8	アスファルト舗装材製造設備の変更のため骨材ホッパーを解体で、ホッパー上部の仕切板(質量1.5t)の根元の取付ボルトをガス溶断したところ、板が倒れて落下しその下敷きになった。	10804	4	30～ 49
2001	7	11 ～ 12	廃タイヤからホイルを取り外すため、インパクトレンチでホイル取付部のボルトを外していたところ、タイヤチューブがバーストし、外れたホイルにインパクトレンチの回転力が加わってホイルが回転しながら飛来し、顔面を直撃した。	80109	4	1～9
2001	7	11 ～ 12	台に乗せた約12mの鉄骨の加工作業中、継ぎ目の溶接で溶接箇所を上面にするため床上操作式5tクレーンで吊り90度回転させ、位置調整のため右手で玉掛け用具(チェーンフック)を体の方向に引き寄せたとき、鉄骨が頭上に落ちてきた。	11209	6	1～9
2001	7	8 ～ 9	国道の法面修繕工事において、長さ6mの鋼矢板の束(10枚:3.6t)を25t移動式クレーンで移動するため玉掛け作業を行っていたところ、移動する鋼矢板の束の後方に2段に積み重ねられていた鋼矢板の束(計20枚)が倒壊し下敷になった。	30106	5	1～9
2001	7	0 ～	12tトレーラーにビル建設用鉄骨(質量1.8t)を荷台にのせ鉄骨をレバーブロックで固定作業で、固定する4ヶ所のうち1ヶ所のレバーブロックを引いたところ、積まれた鉄骨2本のうち上の1本が落下し、トレーラ	40301	4	10～ 29

		1	一横の鉄製の階段との間に挟まれた。			
2001	6	11 ～ 12	砕石用ベルトコンベアーの解体工事において、溶断したベルトコンベアーの点検用歩廊を移動するため吊り上げ荷重25tのホイールクレーンで吊り上げて旋回したところ、手すり部分と歩廊部分が腐食のため剥がれて歩廊が落下し玉掛者を直撃した。	30302	4	1～9
2001	2	9 ～ 10	クレーン用グラブバケットの組立で、ホイスト式壁クレーン(1.0t)を使用して吊り上げた状態で溶接していたところ、玉掛けのためバケットに仮付けされていたアングルがバケットから外れたため、バケットが落下し、バケットと隣りに置かれていた他のバケットとの間に挟まれた。	11509	4	50～ 99
2001	5	15 ～ 16	エンジンの改善作業場において、納入された鋼材20本(195kg)を棚に載せる作業が終了したときに、突然棚の支柱の溶接部が破断したため、棚に載っていた鋼材が崩れ、その下敷きになった。	11502	5	1000 ～ 9999
2001	3	16 ～ 17	工場に材料が届いたのでそれを整理するため、整理棚に立掛け、次の作業場所に移動しようとしたときに、棚が2tの材料とともに倒れ下敷きになった。	11209	5	1～9
2001	4	15 ～ 16	もと田んぼだったところを整地した敷地内において、油圧ショベルで鉄板の片づけ作業をしていたところ、立った状態の鉄板にかけていたフックが外れ、激突した。	30199	4	10～ 29
2001	4	8 ～ 9	現場の資材をトラック(最大積載荷重9.9t)で資材センターに運び荷を下ろそうと荷台のあおりを開けたところ、積んであったレール(長さ約10m、重さ370Kg)が落下し、腹部に当たった。	40301	4	30～ 49
2001	4	13 ～ 14	シャーで配電盤用の鋼板加工を行っていて、壁に立てかけてあった鋼板を選定し抜き取ろうとしたところ、鋼板約50枚(重量約400kg)が倒れてきて鋼板とシャーとの間に挟まれた。	11209	5	1～9
2001	2	16	ダムスクリーン(流木などをせき止めるためのステンレス製のすのこ)を立てた状態で溶接作業を行っていたときに、スクリーン(質量約1t)が	11209	5	1～9

		17	倒れて下敷になった。			
2001	2	14 ～ 15	船内のNo. 3ホールドの高さ約15mの位置で、高所作業車に乗ってワンドルピースという重さ約13kgの鉄板の溶断作業をしていたが、誤ってワンドルピースを落下させたため、下でゴンドラに乗るための準備作業をしていた者の頭部を直撃した。	11501	4	1000 ～ 9999
2001	1	11 ～ 12	建設部材のH型鋼(質量960～970kg)12本を10t積貨物自動車に積込む作業で、最大荷重3.5tのフォークリフトに2本重ねた状態で積込むのを貨物自動車の荷台の上で誘導していたところ、4回目に積込んだ荷が崩れてH型鋼1本が落下し頭部に激突した。	40301	6	10～ 29
2001	1	11 ～ 12	船体の前方下部に使用される鋼板(重量3290kg、厚さ15.5mm)を盤木の上に置き鋼板の3次元曲げのため鋼板の下に潜って裏焼きをしているときに、鋼板が落下し骨盤より上の上半身が下敷きになった。	11501	5	300 ～ 499
2001	1	10 ～ 11	溶接されたH鋼の製作時に発生するフランジのひずみを矯正する作業中に、次にセットする準備として立てかけてあったH鋼(重さ約3t)が倒れ矯正装置のローラー荷台との間に体をはさまれた。	11209	5	10～ 29
2000	5	0 ～ 1	資材収納籠の周囲をコの字形に囲んだ簡易焼却場の一部を改造しようとして、鉄板(3m×1.5m、質量900kg)と収納籠との間に胸部を挟まれた。	80409	5	1～9
2000	4	10 ～ 11	工場内の床に2段積にされたH鋼(質量約400kg)の上部2段目の手前から2本目を2.8t吊り天井走行クレーンでクランプを用い吊り揚げたときに、手前から1本目に接触したため鋼材が落下し右大腿部に当たった。	11209	4	10～ 29
2000	4	8 ～ 9	ビル新築工事において、トラック荷台の鋼材(長さ3.3m、重さ660kg)をクレーンで吊り荷台で地切りしたところ、すぐ隣に積んでいた同形状の鋼材が倒壊しそうになったので、玉掛者が手で押さえようとしたが危険を感じ荷台より飛び降りたところに鋼材が落下した。	30201	4	10～ 29
2000	12	13 ～	船上クレーンのメインビームの電線用ハンガーの取付け作業のため、アーク溶接用ホルダーとケーブルを手を持って、製作中の船舶用ク	11301	4	10～

		14	レーンガーダの下部を通行中に、上部の作業箇所からガーダのレール(約340kg)が落下してきて頭部に当たった。			29
2000	8	14 ～ 15	国道の道路拡張工事において、擁壁の裏込作業のため砂利均し作業中に、落石防護壁解体のためホイールクレーンで吊り上げ回転させていたH鋼(長さ11m、質量約500kg)3本が落下してきて激突した。	30106	4	10～ 29
2000	8	15 ～ 16	制御盤扉の二次加工のため扉の鉄板材料(質量48kg)を並べ替えていて、取り出そうとした鉄板に他の2枚がくっ付いてきたため、支えきれずそのまま後方へ倒れ、鉄板の下敷きになった。	11209	5	1～9
2000	12	11 ～ 12	工場排水処理装置に使用する浮上分離槽を製造するため直径3.2m、幅3.11mのタンク上で溶接作業中に、タンク上から滑って墜落した。	11209	1	1～9
2000	6	11 ～ 12	製作所で切り込みを入れた鉄板をハンマーでくり抜いていたところ、後方に立て掛けられた鉄板(長さ240cm、幅50cm)が倒れてきたため鉄板と台車との間に挟まれた。	11209	5	50～ 99
2000	10	16 ～ 17	通路のひさし(中空のアルミ製、質量約1t)を製作していて、この製品を裏返すため吊り上げ荷重5tの天井クレーンで製品の長手方向2箇所に溶接されている玉掛用吊りピースにナイロンスリングを掛けて片側を吊り上げ、製品がほぼ垂直になったときに、玉掛けしていた片方の吊りピースの周りの部材部分が引きちぎれて製品が落下し、頭部を挟まれた。	11209	4	100 ～ 299
2000	2	14 ～ 15	コイル状のプレス加工材を自動供給装置へセットするための搬送機であるコイルカー上に立ててあったコイル(質量500kg)が倒れたためコイルの収納作業中の者が下敷きになった。	11209	5	50～ 99
2000	6	15 ～ 16	鉄骨の梁材をトラックの荷台に積み込むため天井クレーン(2t)の玉外しをしていたときに荷台から墜落し、続いて梁材が荷台から落下して一旦床に当たった後頭を直撃した。	40302	4	1～9
		10	空ドラム缶の洗浄ラインの修理作業中に、自動で順送りされるドラム			30～

2000	3	～ 11	缶と前のドラム缶との間に挟まれた。	11709	7	49
2000	2	9 ～ 10	大型プレスのアーム部材(2m×2m、厚さ25mm、重さ750kg)を床上操作式天井クレーン(吊り上げ荷重7.5t)で吊り上げて仮置場まで移動させる作業中に、部材と仮置場に置かれていた別のアーム部材との間にはさまれた。	11301	6	1～9
2000	8	9 ～ 10	学校の耐震補強工事に使用する鋼材の耐震補強フレーム6枚(一枚1t～1.5t)を、トラックで搬入し、耐震補強フレームを1枚取り除いたときにトラックが傾いて耐震フレーム5枚と荷台に乗っていた者が墜落し、その下敷きになった。	30309	5	1～9
2000	6	14 ～ 15	重さ約6tの鋼材を台車に乗せて移動中に、台車が転倒し鋼材の下敷きになった。	11209	6	10～ 29
2000	1	11 ～ 12	コラム形の柱に梁を取付けるためのH形鋼を溶接する作業で、柱をH形鋼の台に載せ、仮溶接した梁取付部のH形鋼に足を乗せた途端、鉄骨柱全体が180度回転し、そのはずみで1.42m下に転落し、下のH形鋼に背中を激突させた。	11209	1	1～9
2000	4	16 ～ 17	台車上のハンガーに掛けられたパレット(立体駐車場用の鉄板)を10t橋形クレーンで製品置き場に下ろす作業中、1枚のパレットをハンガーから外し、もう片方の玉掛け作業を行っていたときにハンガーが倒れてきてパレットの下敷きになった。	11502	5	100 ～ 299
2000	2	11 ～ 12	マンホール設置のため、ヒューム管(重量5.2t)を3個の吊金具で移動式クレーンにより立孔に降す作業中、吊金具が破損・脱落して傾いたため、立孔上部に入り込んでいた者がヒューム管と立孔シートパイルの間に挟まれた。	30110	4	30～ 49
1999	12	9 ～	ロングスパンエレベーターの解体作業の現場において、解体されたロングスパンエレベーターのガイドレール取付用部材である1.5mの単管が、地上33メートルの足場板上から落下し、そのエレベーターの下	30201	4	30～ 49

		10	で作業していた者の身体に当たった。			
1999	11	8 ～ 9	工場1階においてH形鋼へペンキ吹付けの準備作業を行っていたときにH形鋼上(長さ7.6メートル、幅0.3メートル、高さ1.23メートル)で転倒し、H形鋼の下方に平行して置かれていた別のH形鋼に顔面を強打した。	11209	2	1～9
1999	12	10 ～ 11	護岸工事で、法面の敷石の上に金網を敷くため金網を延ばして法面にあわせるため単管(長さ4m)に番線で結束し、この単管とワイヤーロープを番線で結束してドラグショベルで吊り上げていたところ、単管とワイヤーを結束していた番線の1箇所が外れて単管が右側頭部に当たった。	30107	6	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	製品検査のため11本並べてあった建築用鉄骨(重量約2t)の4本?8本の鉄骨が将棋倒しに倒壊したため、10本目と11本目間でケレン作業をしていた者が鉄骨間に体を挟まれた。	11209	5	1～9
1999	10	9 ～ 10	資材(ベント材、C型チャンネル、H鋼)が積んである付近でドラグショベルを用いて整地作業を行うに当たり、旋回範囲を確認するためショベルを上げながらゆっくり旋回させていたときに、ショベル部分がベント材に接触したため、一番上に積まれてたベント材一つが落下して近くを通行していた者にあたった。	30106	4	50～ 99
1999	10	13 ～ 14	圧延工場の製品ストックヤードで鉄筋束を天井クレーンでトレーラーに積み込み作業中、近くに積み重ねてあった鉄筋束の「はい」(高さ・約2.8m、8段積み)の上部5段(約20トン)が崩壊したため、脇にあった鉄筋束の「はい」と崩落した鉄筋束との間に全身を挟まれた。	11001	5	100 ～ 299
1999	10	8 ～ 9	側溝工事(深さ150cm)において、雨に対する養生のため一方の側面に鉄板9枚(重さ700～800kg)を並べて立て掛けて置いていたが作業上そのうちの1枚が邪魔になったので、ドラグショベル(機体重量9.3t)で吊上げたところ、隣の鉄板が倒れ掘削法面と鉄板との間に挟まれた。	30106	7	10～ 29
		15	船舶解体のためアセチレンガス溶断作業を各担当に別れて行っていた			

1999	10	～ 16	が、同僚の溶断作業中に出た火花が下の階の床に飛び火していたので、甲板の下に入り足で火を消そうとしていたところに甲板が落下し、その下敷きになった。	80109	4	1～9
1999	10	～ 17	大型貨物車で県道を走行中、対向の貨物自動車の幌が風にあおられてはずれ、すれ違ったときに、骨格のパイプごと飛んできて幌の先にある約5メートルのパイプがフロントガラス右側を突き破ってきたため右あごからから左耳後部にかけて貫通した。	40301	4	10～ 29
1999	8	～ 14	ガス管理設工事で、シートパイルホイール式油圧ショベルに油圧バイブロアタッチメントを取り付けてシートパイル(長さ7m重量420kg)をチャッキングし引抜いたところ、シートパイルが抜け落ちて当たった。	30199	4	1～9
1999	8	～ 11	電気炉の修理で、スプラッシュ(ステンレスの酸化物)を炉の天井蓋から鋼管を用いて落としていたところ、スプラッシュ(600kg)が落ちた反動で、鋼管が顎に当たった。	11009	6	300 ～
1999	7	～ 11	高速道路防護壁の支柱材料(長さ5.6m、4.5t)11本を工場内で移動するため、クレーンで4tトラックに6段と5段の2列に積んで運び、トラック荷台上で2列目の5段を卸して玉掛けワイヤーを外したところ、先に積んであった6段積の材料といっしょに荷崩れを起こしたため荷台上から材料4本とともに地上に落下し、その下敷きになった。	11204	5	30～ 49
1999	6	～ 15	休憩時間に所定の休憩場所へ移動するため、溶断した厚鉄板上に足をかけたときに、鉄板とともに97cm下の床上へ転落し、頭を強打した。	11209	1	10～ 29
1999	6	～ 13	脱磷スラグ処理場で、玉状スラグ大塊を処理畑の端部に移動させるため、ブルドーザーで押しながらスラグを移動させたとき、大塊内部に残っていた流状の滓が水溜まりに入ったため水蒸気爆発が発生した。	11001	14	10～ 29
1999	6	～ 16	トレーラー後輪外側のタイヤの空気圧が低かったため、空気圧縮機の圧力を8.2kにセットしてタイヤへ空気を充てん中、ホイールが破れて吹き飛び、近くにいた者に当たった。	80209	15	10～ 29

1999	6	10 ～ 11	架設足場に使用する単管を小型移動式クレーンで荷揚げする作業で、単管の束をワイヤーロープ2本で玉掛けして吊り上げたところ、荷が傾いてワイヤーロープからすり抜けて落下し、その下敷きになった。	30199	4	10～ 29
1999	6	14 ～ 15	200tの移動式クレーンにより吊り降ろされた鋼管をプレス機械の据え付け場所に置き、仮止めしないまま玉外しをしたところ不安定な鋼管が転がり落ちてきて支えきれなかった被災者は鋼管とともに墜落した。	30302	6	10～ 29
1999	5	14 ～ 15	工事現場内の堤防に伏せて置いていた写真撮影用黒板が突風で飛ばされ、堤防の下方でコンクリートの補修作業をしていた者の右側頭部に黒板裏側の支え棒が刺さった。	30107	4	10～ 29
1999	5	10 ～ 11	木材加工用機械の部品を2つ並べた高さ80センチの脚立の上に乗せた状態で放置しておいたところ、同部品(長さ4m、幅40cm、厚さ11cm、重量690kg)が脚立から落下し付近でグラインダー作業をしていた者の頭部に当たった。	10409	4	1～9
1999	4	18 ～ 19	積載型移動式クレーンで鋼製の矢板3枚を荷降しして、玉掛用ワイヤーロープをフックから外して抜き取ろうとしていたところ、最上部の矢板が反転して崩れたため頭部を挟まれた。	30110	5	30～ 49
1999	3	10 ～ 11	下水道工事において、掘削した溝の土止め用鉄板をドラグショベルで吊り下げていたところ、鉄板が溝の底に着地した拍子にワイヤロープのフックが鉄板から外れたため、倒れてきた鉄板と地山との間にはさまれた。	30110	7	10～ 29
1999	1	15 ～ 16	上水道管の配管工事において、ドラグショベルで水道管を荷降ろしする作業中、誤って水道管が土止め支保工に接触したため衝撃で土止め支保工が落下し、激突された。	30110	6	1～9
1999	2	9 ～ 10	車を横向きに立てフロントドライブシャフト、足回り部品をインパクトレンチを用い取り外す作業中に横向きに立てていた車が倒れてきて挟圧された。	80109	5	1～9

1999	2	13 ～ 14	ストックヤードに仮置きしたH型鋼4本を2.8トンホイストクレーンに玉掛し地切りしたときに、玉掛したH型鋼の下にあったH型鋼1本が転げ落ち、それをよけた拍子に後方に積んであったH型鋼に頭部を強打した。	11209	2	1～9
1999	1	9 ～ 10	仮橋に使用したH鋼をドラグショベルで道路脇に片付ける作業で、先に置いてあったH鋼の上に降ろしたのち玉掛ワイヤーを外してショベルで引き抜こうとしたところ、突然H鋼が崩れ落ち、玉外しをした者がH鋼の下敷きになった。	20202	5	1～9
1999	1	10 ～ 11	コンテナ車に積まれているアルミ切粉のプレス品が2段になっているものをフォークリフトで降ろす作業中、上段にあったプレス品が崩れて合図者がプレス品とコンテナの壁との間に挟まれた。	11101	4	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_29.html